

婦人と子ども

第八卷
第十號

ルベーレ・ア・發會



第八卷第十號目次

○幼稚園の本領

○児童の個性及び其取扱法 松本孝次郎

○頭の研究と教育との關係 横山榮次

○幼稚園に於ける所謂共同的遊戲に就いて

和田實

○都會の児童の長所と短所 光藤秦次郎

某夫人

○育児の經驗 葉天子

石井泰次郎

○短歌 真宮起雲

○幼稚園の効果に對する質問に答へ 記者

○御伽喋り王と喋べり龜 とよ子

主幹 長事幹

(東京女子高等師範學校校長
東京女子高等師範學校教授)

本會役員

編輯

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

和下福武川和小大兩池中高
田田井口田關關森田村嶺
たふ綱トト五秀
實づく枝得藏清ヨ釧ヨ六夫

入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ月分をまとめて本會に直接御申込下さい。會員にならうに雜誌丈け讀みたい方は左の割合の前並で本會が又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい。

●一冊郵稅共金拾一錢

●六冊前金郵稅共六拾錢

●郵券代用一割増



妹 姊

幼兒教育叢書第一卷

東京女子高等師範學校教授 中村五六
東京女子高等師範學校助教授 和田實 合著

幼兒教育法

菊版美裝 紙數約三百頁
定價金壹圓 郵稅金拾錢
フレーベル會員一割引

一名 改良せらるたる幼兒保育法

教育の隆盛前古に比なき明治の聖代にも未だ幼兒教育に關する系統的
説明を試みたるものなく所謂名士の斷片的言説の徒に世人を迷はすあ
るのみ。是本書の因つて出づる所以なり。世の父兄たり教育家たるもの
の精讀せざる可からず。

發行所

東京市神田區表神保町 東京女子高等師範學校内

東

京

堂

フレーベル會

本製旬中出來す

會告

来る十日（第一二土曜日）午後一時半より日

本橋常盤小學校附屬幼稚園、新築園舍に

於て本會第五〇回常集會開會左之通り舉行候に付知友御同伴御出席相成度候也

一演說

小兒の外貌

醫學博士 三輪信太郎

幼稚園と小學校との連絡

大元茂一郎

一茶菓

以上

明治四十一年十月

フレーベル會

心理講習會開設廣告

一講師 高島平三郎氏

一學科 應用心理學

一期日

来る十一月八日より毎週一回水曜日午後三時より五時迄八回完結

一場所

女子高等師範學校附屬幼稚園内

一講習料

金五拾錢

但し會員外の方にして御入會希望の方は別に金貰拾錢の手數料申受候

一申込

はがき又は口上にて本會へ申込ま
れたし

右之通り講習會開設致し候時下冷氣相催
ふし研學の好時節と相成候間奮て御加入
下され度候

明治四十一年十月

フレーベル會



番
ア

第十八卷 第十號

幼稚園の本領

幼稚園は体育を主とす可きもので幼児の心身を養護することが最も主眼でなければならぬ。感情の教育は之に次いで盡力せられねばならぬが智育は最も軽き位置にあるものである。とは從來の保育法の唱ふる所ではあるが専て實際の幼稚園保育は如何に之を實行して居るであらうか、吾人の見る所では事實は之と反対に出て居る様に見える。体育に就いては唯僅かに注意して消極的弊害を避けて居る位のもので一向積極的施設は之を見出しきことが出來ない。次いで感情教育は体育に比して大に注意せられては居るが、併し談話や恩物に因つての智育的施設に比しては稍劣つて居る。即ち現在の幼稚園は其理論と實際とが全然反対して居るものであると云はねばならぬ。蓋し從來の保育理論の主張する体育主腦論が幼兒教育の本領としては餘りに淺薄なる爲ではあるまいか。（湘南生）

児童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

今日は感情に關係致しまして二三の主なる個性について話をして申します。丁度前回迄お話を致しましたのは、智力の方が主になつて居る個性のことをお話しめたのであります。今度は感情に付ての主なる個性を二つ三つ挙げてお話しやうと思ひます。普通多く見る所の児童、總て賢い方の子供と云ふものは、概して申しますと早くから多少恐れると云ふやうな性質を有つて居るものであります。鈍い方の子供よりは賢い子供の方が早くから恐れると云ふ方の傾きを持ちます。さうして目で見て見た物よりも却て耳で以て聞く所の音に向つて早く恐れを現はす傾きがあります。物の音に驚くと云ふやうな事は早くから現はれる居ります。併し賢い子供は若し自分が自ら笛を吹くとか或は太鼓を叩くとか云ふやうな風に、自分自身で以て或る場合に音を出して見ると云ふこと

が出来るやうになりますと云ふとそれから物の音と云ふものも餘り驚かなくなつて來るです。自分が原因となつて力を出してさうして音を出すことが出来ると云ふやうになれば、却て音を怡ぶと云ふ興味を起すやうになつて來るものである。音に續きましては目で見た物を驚くと云ふ性質を起すものであります。それは餘程大きな物を見て恐れるとか、或は形が普通見た物と變つた物があればそれを恐れると云ふやうな、さう云ふやうな性質が早く現はれて來るです。併し是れも通常の場合でありますと云ふと、始まりはさう云ふやうな物を見て恐れて居りますけれども、其内に好奇心と云ふものが子供に起つて來るものであります。此好奇心と云ふものは子供には殆ど天然自然に偏はつて居ると言ふても宜い位に早くからある所のもので大人の場合で申しますれば研究心とでも言ふべきものなのです。大人で言つて見ると、何か變つた珍らしい物を見ればそれを一つ研究して見やうと云ふやうな心が起る。それが子供の場合には好奇心と云ふものであるのです。どうしても智力

の發達して居る者は好奇心に富んで居る。智力の乏しい子供は好奇心が少いと云ふ譯であります。此好奇心に助けられまして、始まりは怖がつたやうな物も自分から氣を付けて之を見やうと云ふやうな心が子供に起つて來るのです。それで此心が起つて氣を付けて見ると言ふやうになれば、其處に自然に面白味或は愉快と云ふものも出て來る譯である。子供が怖い物でも見る。俗に怖い物見たさと言ひますが、それはどうかと云ふと詰り此好奇心に助けられた結果である。斯う云ふ譯であります。するからして、若し智力が普通の發達を致しまする子供でありまするならば、一時は恐れると云ふ状態を持つて居る者でも、永く之を恐れると言ふやうな状態にはならないのです。然るに臆病と云ふやうになりましたのは、是れはもう恐れると云ふ心が極端に發達して仕舞つたもので、始まりに子供が怖がると云ふ性質があるのは自然的であるけれども、何事でも万事に付て臆病であると云ふやうになりまするのは、最早不自然的の有様であると言はなければならぬのです。能く世間の母親

の中には、自分の子供が兎角物事に吃驚するやうな事があつたり、或は怖がることがあつたりすると言ふて心配をされる方があります。それは強ち心配するには及ばない、唯ださう云ふ場合に於て神經の過敏な性質の者でありますと云ふと、隨分之に伴つて神經上危険な事がありますからして注意して育てると云ふことは必要でありますけれども、唯だ物事に驚くとか云ふ位のことではそれ程心配するには及ばぬので、それは普通の子供ならば暫く経つと段々に直つて行くので、却て子供が賢い方の場合に於てさう云ふやうな性質を見るのであります。そこで其子供を育つて行くのに、其怖がる所の物を一時に急に怖がらせないやうにすると云ふ方法を探るのは無論誤つて居るのであります。そこで其子供を育つて行くのに、能く人が言ふのに、若し大將怖がるのならばそれを怖がらないやうにする爲めに却て其爲を見せてやつた方が宜からう斯う云ふやうな考を持つて居る人もありますけれども、急激に之を怖がらないやうにする方法を探ると云ふことは、幼稚な子供には少しく無理であります、意思の大分に發達致

しました子供、例へば小學校時代の子供でありましたと云ふと、其怖く無いと云ふ事の理由を能く説いて其品物を見せれば、却て之を怖がらないやうになると云ふことがありますけれども、まだ家庭時代或は幼稚園時代の子供では急に之を直すことは六ヶ敷いからして、先づ追々と智識を養つて行き、さうして折々さう云ふやうな怖がる物に接近させて慣れしむると云ふやうな方法を探つて、順次に其成功を期すると云ふやうな考で行かなければならぬのです。若し子供が昆蟲類を怖がるやうな場合に於ては、傍らからして其昆蟲と云ふものに付て美と云ふものを感ぜしめる方法、例へば繪の中に美しく現されて居る所の昆蟲なるものを見せて、其昆蟲の自然的美と云ふやうなものを感じしめるとか、又は昆蟲に付て動物學上の理科的の説明を簡短にして、さうしてさう恐ろしいもので無いと云ふことを説明致しましたならば随分子供が之を會得することもある。併し大人が世の中に幽靈と云ふものは無いと云ふことが分つても、矢張り夜中に墓場を通ると幾らか氣

持が悪いと云ふのと同じことで、子供にそれが分つてもまだ氣持の悪いと云ふことが頭に残つて居るのでありますからして、矢張り道理を以て其子供の怖がるのを直ぐに止めさせて仕舞ふと云ふやうな事は實際には行はれ難いものでありますから。段々に之を直し之を導くと云ふやうな方法を探らなければならぬないです。そこで此恐れると云ふことが極端の個性となりました場合に於ては臆病と云ふ性質になつて來ます、が此場合は最早恐れると云ふ感情を天然自然の目的に背いたものになつて來るのです。臆病と云ふ状態になりますと云ふと、恐れると云ふ感情が天然自然に人に與へられて居る所の目的に背いた動きをするやうになるのです、詰り物に恐れると云ふことは禍を未然に防ぐと云ふ目的に通つたものであつて、危きに近付かないやうな有様になるのが即ち恐れると云ふことが役に立つのである。詰り危いやうな物には早くから恐れて側に寄らないと云ふことが恐れの感情の目的であります。それが臆病と云ふやうになると云ふと、恐ろしいものでも

實際恐ろしくないものでも其區別が付かないで、唯だもう初めからして之を怖がると云ふやうになつて來るので。斯う云ふやうな状態になりませるのには、幾分かは遺傳的の原因があります。遺傳的と申しますのは、どう云ふやうに親が考へて見ても、どう云ふやうに保姆が考へて見ても、どう云ふ譯で怖がるものであるか其理由を少しも説明することが出來ぬやうな場合には、其臆病と云ふことが遺傳的に起つたと云ふの外は無いので、詰り説明の付かない場合に於てそれを遺傳に歸着せしむると云ふやうになつて居ります。眞の遺傳的のものでありますと云ふと大人になる時迄永く其性質が續いて行くと云ふやうな有様になる。例へば非常に鼠を恐れるとか、非常に猫を恐れとか、非常に蛇を恐れるとか云ふやうな、さう云ふ特別な物に對して非常に臆病であると云ふやうなものがあるのです。烈しい者になりますと云ふと、若し偶々さう云ふ物に出逢はなければならなくなつて來れば、一時子供が發熱をすると云ふ位

に吃驚することもあるのです。そこで教育上一番的には無い所の臆病心と云ふものを養成して仕舞ふやうな場合があるのです。それはどう云ふ所に注意すべきは、子供の取扱ひ方の上に於て天然的には無い所の臆病心と云ふものを見ても、どう云ふやうな事が起つて来るかと云ふと、偶々或る蟲を見ると云ふやうな場合に於て、子供は極く無邪氣な心を以て其蟲に觸らうと云ふやうな事もあるのでありませう。所が側に居る者がそれは不潔なものであると云ふやうな考からして、子供に觸らせぬ爲にそれは怖いとか厭な物だと云ふやうなことを極く大袈裟に言ふのです。それが爲めに子供は其物を大變に嫌ふと云ふ精神を起すのです。さうして子供の想像力が段々に増して來まして、竟には非常に想像を逞うして初めからしてもう其物に触ることを恐れると云ふやうになつて來るものであるのです。それは則ち其物体に付ての臆病心をば養ひ易いものなのです。それで若し子供が觸ってはいけないと云ふやうな物であるならば、成るべく其場所をば黙つて去らしめると云ふやうな方法が最も宜しいのです。概

して子供を取扱ふ所の人は何でも自分の口で饒舌るとか騒ぐとか云ふやうであるが、それは特に慎むべきことである。實際恐るべき物或は怖いやうな物でも、側に附いて居る者が黙つて適當な處置をして仕舞へば、子供はそれを氣が付かず過ぎて仕舞ふものであるのです。それを兎角子供を取扱ふ所の人は、自分が手を以て子供に對する適當な處置をするよりも口の方が多く働き過ぎる。それが餘程子供の臆病な性質を養ひ易いですからして私は口よりは先づ手を動かせと、斯う云ふ事を申上げて置きたいと思ひます。是れは子供の取扱ふ無に大切な事であります。それから又子供の取扱ひ方が餘りに子供を愛し過ぎまして詰り平生からして子供の心をば鍛錬すると云ふことをば怠つて居る。餘り色々の刺戟に逢はせないやうに大事にして置くと云ふやうなことは、却て子供が何事にも愁れ易い、臆病な心になり易くなる。詰り全く老人の手で育つと云ふ子供でありますと云ふと、餘り大事にされ過ぎ、却てそれが爲めに臆病なる所の性質を持ち易いのです、詰り何事にも大

事を取過ぎて、それも危い、是れも危いと云ふやうな事ばかりし終言ふて居りますと、段々に子供の精神が適當なる發達をしないで萎縮して仕舞ふと云ふやうな風になるのです。餘程子供の感情と云ふものが、不完全であると云ふばかりで無くて、餘り感情の扱ひ方が下手であると云ふと、感情と云ふものは六ヶ敷いもので、唯だ一時感情の發達と云ふものが不完全であると云ふばかりで無くて、餘り感情の扱ひ方が下手であると云ふやうな虞があるのです。例へば子供が物事に付て恥かしがるゝ云ふ即ち廉恥心、是等は或點から言へば餘り恥かしがつて許り居つては可かぬですけれども、併し一度此廉恥心の取扱ひ方を誤りますと云ふと、今度は實際恥かしい事に出逢つて其恥かしいと云ふことを感じなくなるのです。餘り家庭等が嚴格であつて子供に當り方が強くありますと云ふと、所謂圖々しい子供になつて今度恥かしい事に出来つても耻と云ふ心が起らないようになつて仕舞ふのです。感情は傷けられ易いものである。此恐れると云ふ所の心も恥の感情と同様で傷けられ易いものであるから、餘り何事に對

してでもそれも怖い、是れも怖ひと云ふやうにし
て行くと、遂に正しい所の發達が出来ぬで臆病と
云ふ極端な性質に陥つて仕舞ふのです。それだから
らして詰り子供を扱ふのに氣を付けると云ふこと
は無論大事であるけれども、大人の心で恐ろしい
事と思ふてもそれを、直ぐ子供に傳へると云ふや
うなことは不得策なる方法と考へて宜いのです。
それからして兎角子供を家に許り置いてさうして
他の子供と餘り接近させる事が無いとか、或は他
の家庭に餘り連れて行つた事が無いとか云ふよう
な有様でありますと云ふと、幾らか子供が臆病と
云ふやうな風の有様に陥り易いです。それは何せ
さう云ふやうな有様に陥るかと云ひますと、子供
の適合性と云ふものが餘り發達しなくなる爲めで
す、適合性と言ひますのは、即ち平生と違つた境
遇に出逢つた時に旨く其境遇に適した所の精神の
働き方をさせるので、大人が此適合性を能く作つ
て行くと云ふには、詰り種々の場所に出て場所慣
れて来れば其適合性が多く養はれて来るやうにな
るので。それゝ同様で矢張り子供でも唯だ引ッ

込めて許す置くと、其適合性が發達しませぬから
して、そこで新しい違つた場合に出逢へば、幾ら
か自分で恐れの心を起し易くなつて来るのです。
さう云ふ點から申しますと、矢張り子供の會合
子供の集りと云ふやうなものを持々催すのが宜し
いのです或は又子供の教育に能く行届いて居る家
に子供を連れて行くと云ふことも餘程宜しい事で
す、詰り或家庭と或家庭とが御互ひに相談をして
甲の家から乙の家を訪ね、乙の家から甲の家を訪
ねると云ふやうに、子供の教育と云ふことの目的
を以て訪問すると云ふことがあつて宜からうと思
ひます。普通所謂訪問の種類と云ふもの、中に教
育訪問と云ふものがありませぬけれども、通例謂
つて居る訪問の種類の中に、子供を教育する目的
を以て訪問すると云ふことが一つ出来ても宜から
うと思ふのです。是れは殊に教育者の間には行は
易い事でありますからして先づ教育者自身が社
會の普通の人卒先してさう云ふやうな方法を探
るとは、大變に面白い事柄であると思つて居るの
であります。

頭の研究と教育との關係

文部省視官 横山榮次

(本篇は同君が先頃本會開設の夏季講習會に於て課外講演として演述せられしものなり)

一、緒論

私は「頭の研究と教育との關係」といふことに就いて少し御話をしやうと思ふ、併し頭の研究と申しますのは人類學或は人種學の一部分として人間の頭を調べるといふことである、即ち人間の頭の大ささであるとか或は其頭の形、さういふやうに頭に關したことと總て研究することを、私が茲に此の研究と云ふのである、其頭を研究するといふことは我々の執つて居る所の教育の仕事と關係を持つて居りますからして、其關係に付て大體の事を

二、我國の惡習慣

然るに我が習慣としては兎角頭は餘り大切にしないやうに思はれる、今日ではさうタントないけれども、從來は我々が表で出るのに帽子を被らない、故に暑い時でも亦寒い時でも素頭で以て表に

るといふと是も邪魔になる、であるからそれを切取らなければならぬけれども、髪の毛の如きものでも亦爪の如きものでも、矢張り我々の身體の生활には或一つの役目を持つて居りますので、必要な部分であると云はなければならぬ、どの部分でも人間の身體にいらぬ部分といふは決して無いのであるが、殊に此頭即ちカシラは最も大切な部分である、頭には御承知の通り脳髄が宿つて居りまして、さうして我々のどんな精神の動にも必ず脳髄の動と伴つて居るのである、人間の動の中で一番大切なものは何であるかと云へば、言ふまでもなく精神の動である、其精神の動に常に伴つて働く所の脳髄の宿をして居る所の頭であるからして、頭を大切にしなければならぬといふことは言ふまでも無いことである。

出るといふ習慣があつたのである、今日でも尚ほ田舎の方に行けばわるのである、それから頭の病気と云へば即ち頭痛であるが、頭痛は大切な頭の病氣であるからして、我々は最もそれに注意しなければならぬ筈のものである、所がナニ頭痛位は何でもないといふやうなことは能く一般に言ふ所で、無理をして色々の仕事をするといふことがある、それから又家庭で子供を撫ける場合などに於きましても、何か言ふことを聞かないといふと直ぐに親が子供の頭を擲るといふことも随分見る所である、一體に我邦では頭といふものを、或意味から言ふと大切にしないやうに思はれるのでありまするが、是はまだ宜くない習慣であるからして、將來改めて行かなければならぬことであらうと思ふ。

三、精神作用と脳髄

前申した通り精神の働くには必ず脳髄の働きが伴つて居つて、脳髄は常に精神の働く取次所となつて居るのであるからして、精神の立派に發達することを望むには必ず健全なる脳髄を持つて居らなければ

しばならぬ、所が脳髄の發達に對しては我々直接に何事をも爲すことが出来ないのである、即ち影響を及ぼすことが出来ないのである、換言すれば良い脳髄にしてやらうと思つても、それを良い脳髄にしてやるといふことは出来ない、持つて生れた脳髄を其儘發達させるといふことは出来るけれども、それを造り變へてやる、掩へ變へてやるといふやうなことは出来ないのである、併ながら間接の働く依つて能く注意を加へて行きませらば、此脳髄を完全に假令持つて生れたらものを作り變へるといふことは出来なくとも持つて生れた脳髄が發達する所までは發達させて行くことが出来る、それから又結婚の方法などに依つて良い頭の子供を揃へるといふことも出来るものであるさうするには先づ頭を能く研究して行かなければならぬ、どういふ頭が良いのであるかといふ研究をして行かなければならぬ。

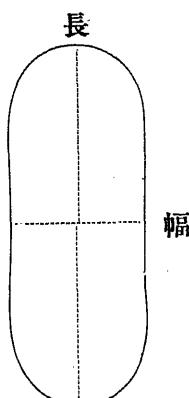
四、熱心なる頭の研究者

この頭の研究は今日猶ほ甚だ幼稚であるが、獨逸あたりでは段々其研究が擴がつて參りまして、殊

に教育に關係ある人が追々と自分の預つて居る子供などに付て研究するやうになつて來ました、獨逸で此頭の研究で今日名高くなつて居る人はドレスデンといふ町がありますが、其町の醫者をして居る所のレー・デといふ人です、此人はなかく熱心である、それからもう一人名高い人は、私が長く滞在して居りました、バーデンのカールスルーエの技師である所のアムモンといふ人である、此二人の人は非常に熱心なる頭の研究者でありまして、二人の職業の人に就て詳しい調べを致しまして、それに依つて面白い結果を得たのである、二人共非常な熱心な研究家でありまして、レー・デなどは既に獨逸國民ばかりでなくして其他三四箇國の國民に就て七萬人の頭を測つたといふことです、それからアムモンといふ人には私は二三度會ひましたが、此人は建築か何かの技師であるが、非常に頭の事に興味を持つて居りまして、獨逸に徵兵検査がある時分に始終検査官の後を附いて歩いて、さうして検査官が徵兵の體格検査をする場合

に、先生ちょっと時間を許して貰つて、兵隊の頭をちよい／＼と測つて、澤山の頭を測つた、それが爲めに自分の本職は投げ遣りにして、頭の學者になつて仕舞つた、それから伊太利の或學者からアムモンといふ人は頭を測つた御蔭で名譽博士の號を贈られて、只今博士になつて仕舞つた。

五、頭の測り方
此頭を測りますには色々な仕方があります、一番大切なのは頭の前方から後方に至る長さと、それから幅此長さと幅との關係を見るのが頭の研究の中で一番大切になつて居る。



其長さと幅との關係に依つて頭の種類を三つに分ける、第一は長頭といふ、それはどういふ工合にするかといふと、先づ長さがどの位あるかを測つ

て、それから幅を測る、さうして

圖×100
畳

斯ういふ式を立てる、斯うするといふと長さを百と見た場合に此幅がどの位の割合になつて居るかといふことが分る、詰り長さを百と見た時に幅がどの位になつて居るかといふ割合が分つて来る、其割合の八十未満の頭は之を長頭といふ、それから其次は中頭、是は今の中頭の割合の八十以上八十五未満の頭を名けて中頭といふ、それから第三は圓頭、是は八十五以上、此三種類がある、此割合のことを行はインデックスといふ、之を測るにはタスタルキルといふものがある、是は二本の火箸を曲げて其先で頭を挿み、さうして一番距離の離れて居る所を測る、それに物差が附いて居つて、伸び縮みが出来る、詰りタスタルキルといふもので測る、そこで頭の長さと幅との割合に依つて三つの頭があるとして、此割合に依つて人の賢いか馬鹿であるか、即ち人の賢愚といふものを精密に測るといふことは固より無理なことであるけれども

大體から言うた時には長頭が上等で、中頭が中等で、圓頭が一番下等である。
之を歴史の上に調べて見ると、埃及や希臘や羅馬などの段々衰へ掛つた時分には、長頭の數が非常に少なかつたといふことです、それからシャントルといふ學者が調べた所に依ると——是は埃及のミイラの頭を澤山測つた人ですが、それに依ると埃及のピラミッド時代の頭といふものは長頭が非常によく多い、即ち七十五のインデックスを現はして居るといふことである、即ち埃及が盛であつた時分には長頭が多かつたのである、國が衰へて来る時に圓頭が多くなる、所が長頭だから皆良いといふ譯にはいかない、それは長頭に又二種類ある、前の方に長いのと、後ろの方に長いのと、二つある、前の方に長いのは宜いけれども、後ろの方に長いのは宜しくない、亞弗利加の黒人種などには後ろの方に長いのが澤山あるけれども、それは宜しくない、先刻御話したレー・テといふ人は獨逸、瑞西、ア・抹、和蘭、白耳義、それからボヘミヤ、それから瑞典などの諸國に於きました、六歳から十四

歳までの男女の學生徒に付て調査を致しました
其男の子供の數が皆で二萬四千二百六十人、女の
子供の數は皆で二萬九百四十七人でありましたが
其結果を茲に書いて見ませう。

男

六才 十才 十四才

平均

頭長	一七、〇三	一七、六四	一八、〇六	一七、五九
頭幅	一四、三〇	一四、〇五	一四、八二	一四、五一

割合	八五、六	八四、〇	八二、六	八四、三
頭長	一六、七〇	一七、二七	一七、七二	一七、二二
頭幅	一四、六四	一四、八六	一五、〇六	一四、八四

女

六、學生生徒の頭

入學した初めには女に較べると圓頭的である。所
が學校を去る時には男の子も女の子も略ば頭の割
合、即ちインデックスが同じ數になつて仕舞ふ、
初めて這入つて來た時には女の方が頭の割合が良く
て、去る時には略ば同じ位になつて仕舞ふといふ
それから尚ほ第四には、女の子供は男の子供より
は概して小さい頭を持つて居るといふこと、此四
つの事柄を今擧げました所の表に就て知ることが
出来るのである。

割合	八五、六	八四、〇	八二、六	八四、三
頭長	一六、七〇	一七、二七	一七、七二	一七、二二
頭幅	一四、三〇	一四、〇五	一四、八二	一四、五一

此表に依りまして左の四つの事柄を知ることが出
来る、其一つは頭の長さの方は幅の方よりも就學
の間に速に伸びて來る、即ち長さの方が幅の大
きくなる方よりは速である、それから二は、子供
の始めて學校に來た時分には大抵圓頭的である、
いふことである、それから三番目は、男の子供は
其所が其學校を去る時分には長頭的になつて來ると
いふことである、それから三番目は、男の子供は

それから今は重に學齡の子供に就て調べたので
す。

あります。が、學齡以外、即ち十四歳以上の人々に就ての調査は兵卒であるとか、或は中學校の生徒であるとか、又は學校に這入つて居らない普通の市民などに就て試みたのであります。が、概して學問をする者の頭は長く、學問をしないで居る者の頭は短いといふ結果を得たのである。レーデ氏がドレスデン市で調べた所に依りますと、六歳から十四歳までの男の子供の割合は八六、〇三である。所が徴兵適齢者の頭の割合は八五、一である、十四歳から徴兵適齢になるまでは餘程隔りがあるからして、其間にモット澤山頭の割合が増して來なければならぬ、即ちモット長頭にならなければならぬ筈であるのに、其割合の増方が甚だ少い、是は學問しない者に付て測つたからさういふ結果になつた、それから又ドレスデン市の中學校の生徒に就て調べた所によると、十歳の子供の頭の割合は八七、十五歳のは八五、七十二歳から二十四歳までの八三、六であった、十年の間に凡そ三だけ増した割合になつて居る、所が普通の教育を受けない市民に就て調べたのに依る

と、僅に一二しかインデックスが増して居らないに陥つて見ますといふと、精神を働かすこと即ち學問することに依つて脳は段々前の方に延びて來るのである、勿論生れながら良い脳を持って居らぬ人は、無理に精神を働かしても其脳が良くなるといふことはないのである、又精神を働かすが宜いといふて、過度に無理な勉強をして、それで頭を引伸ばすといふことも出來ないのである、併ながら持つて生れた所の脳の發達すべき所までは發達させて行くことが出来るのである、尙ほ此頭の割合を學校の生徒の成績と較べて色々と調査を致しましたが、是は色々細かに人々に就ては様々な原因が這入つて居るからして、成績の良い者が必ず長頭といふ譯にはいかない、若し頭の割合と子供の成績とキツ合つて居るものならば學校で成績調査など、いふむずかしいことをしないでも宜い譯であるが、さう簡単なものではないこのレーデ氏の調べた所によると、長頭は一體に良くて出来るけれども横着であるといふ、それから大きい圓頭を持つて居る人は一般に勉強家である、

併し是はレーデ氏の調べた所に依つて想像をしたのであつて、概に言ふことは出来ない、それから田舎者と都會の者との關係に付て頭を調べたアムモン氏の説に依ると、バーデンといふ國では都會地に住んで居る者は田舎に住んで居る者よりも長頭である、又大都會に住んで居る者は小都會に住んで居る者よりも一般に長頭的である、それからレーデ氏のドレスデンで調べた所に依つても同じやうな結果を得たのである、即ち二千五百四十五人の徴道齡者に就て調査したのであります。都會地に生れて其親も都會地に生れた者のインデックスは八五、一であつて、田舎に生れた者は八五、四である、學校生徒に付て調べた結果も矢張り其通りで、都會地の學校生徒は一般に長頭的である、田舎の子供は圓頭的である、是は詰り田舎の生活はあたりの刺戟を受けることが少くして刺戟を受けるからして、頭が直ぐ長くなつて来るさうなつて來ますといふと、都會の生活の方は頭の教育の爲めには宜いではないか、是まで我々主

張した所の田舎の方が閑静で、子供など育てるには却て宜しいといふことの教育上の原則は、此頭の研究に依つて破られるのであるが、即ち田舎で子供を教育するのは宜しくないかといふ疑が起つて來ます、併し是は一概にさう言ふことは出來ないといふのは、成程頭のインデックスは都會地の方が宜いけれども、頭の大さ、分量の方は田舎の方が大頭が多くて都會の方には小頭が多い、此頭の大小といふことも亦非常に人間の賢愚に關係のあることで其點から見ると必ずしも都會地の方が宜いといふ譯にはいかない。

七、各人種と頭の關係

それから今までは田舎者と都會者との關係に就て頭のインデックスのこと御話したのであります。が、國民即ち人種の上に就て矢張り頭の關係を調べたのである、歐羅巴では一般に北の方の人間が長頭であつて、南の方の人間は圓頭である、佛蘭西人には圓頭が多くて、英吉利人には長頭が多いし殊に瑞典人には長頭が非常に多いので、頭の研究者は獨逸で以て生るゝ者をして長頭を餘計にせん

ために、獨逸人は瑞典人と結婚しなければならぬといふことを主張して居る、獨逸人はそれならばどうであるかと申しますと、獨逸では北の方の人が種と南の方の人が種と二つあつて其南方の人が種は概して圓頭が多く、北の方の人が種即ちゲルマン人種と稱へるのは長頭である、所が此頭の研究者の言ふ所に依りますと、獨逸の如きは段々長頭が減つて來まして今日では純粹なるゲルマン人種の結構な長頭は十人に一人位の割合になつて居るから實に是は國の爲めに嘆息すべきことであると言ふて居る。

八、頭と顔との關係

是は頭の長さと幅との關係、即ち頭のインデックスに付ての話であります、頭の研究は唯長さと幅との關係ばかりでなくして、其頭の大きさ、それから頭の高さ、顔の長さと幅との割合、長顔と中顔と圓顔との三つに分ける、それから脳髄の重さも測つて行かなければならぬ、さういふやうな方面から種々研究して行きます、顔のインデックスも矢張り頭のインデックスと同じやうな工合

に、長顔の方が概して宜いといふこと併し頭の方のやうに餘り當にならぬといふことである。それから頭の大さはどうして測るかといふと前に申しました幅と長さとを寄せた數で以て頭の大さを測る標準として居る、或は頭の周圍を見るやうなこともやつて居ります、それから高さは一方の耳の所から一方の耳まで来る所まで、長さを測つて居る、けれども其長さだけでは頭の長さといふことを能く知ることは出来ないと思ふ、或は私の考では耳と耳との間の距離から頭の幅を差引いた方が宜いではないかと思ふ。それから頭の大きさは非常に大切なことで、矢張り頭の大さいのは良いのであるから、其大小は充分注意して調べなければならぬ、それから重さ一重さは厄介です、頭蓋に付て調べなければならぬ、隨分物好な人がありまして、ヒツネルといふ人は死んだ人に就て二百三十五人脳の重さを調べたといふことである、無學の子供は千四百五十五グラム、教育のある子供は千四百三十四グラム、事業に從事して居る者の重さは千四百五十グラム

それから小役人の脳の重さは千四百六十九グラムそれから高い教育のある者は千五百グラムあるといふ結果を得た、併し死人に付て測るといふやうなことはやり兼ねますから、此方の研究はやらなくとも宜いと思ふ。

兎に角我々の頭の研究は前に申しました所の頭のインデックス、即ち幅と長さとの関係を見ることを中心として、それと同時に幅と長さとを加へた所の頭の大さなどを比較して調べて行つたならば其位で宜からうと思ふ。

九、男女の頭の相違

そこで頭の研究者が男女の違ひに依つて頭の関係がどうなつて、居るかといふやうなことを調べましたが、それ等も多少参考になることは少し申し見てやうと思ふ。

男女の違ひに依つて其頭にどんな違ひがあるかといふことを申しますといふと、ヒッヅチルといふ人の調べた所に依ると、女の頭は概して男の頭よりは小さい、又マルジキンといふ人が其違ひに付して調べた所に依ると同じ大きさの頭で以て男

の脳の方が女の脳に較べると重いといふ、それからレーゼといふ人の調べた所に依ると、頭の大きさも顔の大きさも女の子供よりは男の子供の方が概して大きい、即ち氏は四萬千四十八人の小學校の男女の子供に付て調査を致しましたが、頭のインデックス、即ち幅と長さとの割合が兩方とも大きた違ひがないにも拘らず、男の子供の長さの方は女の子供のよりは三、六ミリメートル長く、又其幅の方は女の子供よりは男の方は百、四ミリメートル長い、顔の高さの方も男の子供の方が二ミリメートル多く、其幅も男の方が一ミリメートル多い、九歳以上になれば女の子供は男の子供よりも急に大きくなるのであるが、それでも頭と顔とは男の方が一般に大きい、それから女の脳髄は十六歳から十八歳までの間に其發育の頂點に達するのであるが男の方は二十歳で始めて其頂點に達する十一歳から十三歳までの中に男の子供の頭が長さと幅と合せて五ミリメートルしか増さないのであるが、女の子供の方は六ミリメートルとコンマの一、又外で調べた所に依ると七ミリメートルとコ

シマの四増して居るといふことである、さういふやうに女の方の頭が急に大きくなるに拘らず、それでも女の頭は總ての年に於て男の子供よりは概して小さいといふこと、顔の大きさも矢張り其通りである、詰り女の頭と脳といふものは男の子供に比べると概して小さいといふことになつて居る。是は頭の研究者に依ると女には子供が生むといふ大切な職分があるので、自然女に對しては男と同様に頭を働かせるといふことを許してない、それであるから女は幾ら世の中が進歩しても、男と同じやうに總ての仕事をしやうといふのは間違ひであつて、矢張り女子は其天職に安んじて、天から與へられた所の女子の本分を盡さなければならぬといふことが頭の研究者の結論である。

そこで頭の研究者は父女教員問題に付て意見を述べて居る。是は女子が教員になるといふことは決して悪いことではない、女子は矢張り教員の職務に適して居る、併し茲に斯ういふことを條件としなければならないことがある、といふのは御承知の通り獨逸では女教員は結婚が出来ない。結婚をすれ

ば教職を罷めなければならぬ、所が女教員でもして居るやうな者の中には、ゲルマン人種の至極結構な長頭がある、さういふ長頭を繁殖する爲めに大事な人を唯置くのは宜くないから、女教員は良いことであるけれども、それが宜いとするならば結婚することを許して女教員とするやうにしなければならぬ、そうでないとゲルマン人種が減る乙となるから國家の爲めに宜しくない。

十、社會的地位に付ての比較研究
それから又頭の研究者は社會的地位に關して色々の結論を下して居る、それを個條書に申して見ますれば、其一は士官、それから一年志願兵、下士官などの頭は兵卒よりも一般に大きい、それから其二は、獨立して居る農家の子供は労働者の子供よりも大きな頭を持つて居る。其次是中等學校の生徒は普通の士民よりは大きな頭を持つて居る。それから大學の教授は普通の人較べると著しい大きな頭を持つて居る。其次是大學の教授の中で

二十サンチメートル又はそれ以上の頭の長さを持つて居る者は、徵兵適齡者の中に在る所の數よりも多い、其次是役人といふ範圍で調べて見ると、其地位の高ければ高い程頭が大きくて長く、詰り身軀も大きい、それから其次に地位が高い程二十居る人が多い、其次是頭の周圍は身軀の大きさと同じ割合には大きくならない、其大きくなり方が極く徐かである、然るに徵兵適齡者に就て見ると大きな身軀の者は小さな身軀の者よりも大きな頭を持つて居るので、詰り身軀の大きさと頭の大きさとは釣合を保つて居る、是は教育の餘り高くなれば頭の發達と身軀の發達と釣合ひを保つて居るといふ結果を得た、其次是子供は其身軀の割合に大きな頭を持つて居る、其次に地位が高ければ大きいといふ、社會的地位の高い所に居る人は同じ身軀の大きさの人に較べると大きな頭を持つて居る、其次是貧しい家庭の子供の頭よりも上層の子供の頭が大きい、貴族の子弟は普通の家の子弟

よりは大きな頭と持つて居る、其次に都會地の子供は田舎の子供に較べると、小さいけれども長い頭を持つて居る、田舎の子供は大きな頭である、其次に都會地の徵兵適齡者の中で田舎に生れた者は其田舎の普通の人よりは稍や大好きな頭を持つて居る、是は生れた田舎でも後に都會に住んで居る、それで田舎に住んで居る人に較べて見ると大きな頭を持つて居る、さういふ五の事實を掲げて居る。

それからレトゼ氏は色々研究した後に、頭と社會的地位をそれを三つに概括して居る、其一つは精神上優れて居る人は多くは身軀の長いこと、頭の大きくて長いといふことに於て違つて居る。第二は獨逸の北の方の人類の要素は獨逸國民の精神界に於て重なる効をして居る、即ち長頭がして居る、其次是獨逸國內で社會の上層に立つて居る者は北の方の人種の血筋を受けて居るといふことである、是等がレーゼの研究した結果である。

尙ほ頭を研究する人は其調査に基いて教育に對する色々の意見を述べて居りますが、其一二の事を茲に舉げて見ますといふと、教育の効果といふものは生れながら具つて居る所の脳髄を能く發達させて行くことが出来る、併ながら其脳髄を作り換へて行くことは到底出来ないものである、何でも良い脳髄が總ての土臺となるのであるからして、良い結婚をするといふことにしなければならぬ、良い人間を殖さうとするには良い子供を生むといふことにしなければならぬ、良い子供を持つには教育者が結婚問題を餘りやかましく言はぬけれども、教育の本元は結婚に在るから、結婚の仕方を能く注意するやうにしなければならぬ、其良い結婚はどういふのであるかといふと、詰り長頭、大頭を殖すやうに結婚しなければならぬ、それで斯ういふことを云つて居ります、若し茲に若い將來有望の役人があつて、其人が健康で、怜俐で、高尚で、而も貧乏な婦人と結婚することを好むといふやうな場合であつたならば、國家は其人に結婚加俸を與へてやらなければならぬ、それから結婚

加俸ばかりではなく其人が若し子供を持つた時に子供の加俸もそれに與へてやらなければならぬ。それは子供の加俸もそれに與へてやらなければならぬから役人はかりでなく教員の俸給などにも家族の關係など、いふものを能く見て、それに依つて斟酌をするといふ必要がある、即ち妻を持つて子供が出来る、而も長頭の妻でも持つて居つたならば特に俸給を増してやらなければならぬ、是は誠に良い頭を持つて居るさういふことはタントなりけれども、隨分調べて見るとある、それは實に本人の爲めではない、國家の爲めに投げ遣りにして置くべきものでない、であるから國家の經費で特別に學校を設けなければならぬ、極く田舎の方の風景の宜い空氣の新鮮な場所の良い所に國立の學校を設けて、さういふ長頭、大頭の極く質の良い貧乏な子供、親が貪りで發達させして行くことの出来ないやうな子供を集めて、國家の經費で以て長頭、大頭保存の爲めに特に學校を立てゝやらな

ければならぬといふ意見を立て、居ります。それから段々頭を調べて見ると、頭の大きさ長さ、其形などは皆違つて居る、則ち人間の脳といふものは色々様々な形を持つて居るのであるからして、學校の教育に付て同じ教材を用い、長じ教授の方法で同じ型に嵌めて、長かつたり短かつたりする頭を同じに教育することは無理であるからして、成たけ自由に個性の發達するやうに教育を施して行かなければならぬといふ意見を述べて居ります

十二、結論

只今の研究のことはまだ甚だ幼稚でありまして、彼國にあつてもホンの唯端緒を啓いたに過ぎないことであるが、併しながら其幼稚であるだけ又將來研究をして行く餘地が餘計に存して居ると思はれるのであるから、我々も一つ頭の研究をして、日本には果して長頭が多いか、或は短頭が多いか、中頭が多いかといふことを能く調べて、又大頭が多いか、小さい頭が多いかといふことも調べまして、それに付て生徒の出来、不出来などの關係を調べて行つたならば、面白い結果を得るであらう

と思ふ、私が彼地に居りまして世話になりましたライといふ人が頭の研究に熱心な人で、自分の子供の頭を測り月に二度ばかり測つて居るのであります、能く私は日本人の頭を調べたいから、是非私の所に日本人を連れて来て呉れと言はれましたが、さう誰でも引張つて行くことは出来ず、佐々木吉三郎君を連れて行きました所が佐々木氏の頭は七十二かそこらのインデックスになつて居ると思ひます、私は七十四です、師範學校の教員の中で一番良い頭の佐々木君が来て日本人の頭は長頭が多い、日本人が露西亞に勝つたのも其譯であると云つて感心して居りましたが、それは丁度能く長頭が打付かりましたので、必ずしもさう行くかどうか分らぬ、はつきりした結論には達して居りませぬけれども、さういふことで調べて行くのが矢張り我々の研究の助けになることであらうと思ひます。

(完)



幼稚園に於ける所謂共同的遊戲に就いて

和田 實

普通幼稚園などで共同的遊戲と云つて居るところのものは小學校令施行規則中幼稚園の部に明記してある所謂歌曲に合はした動作を云ふので幼稚園が主として行ふ所から之を幼稚園遊戲とも唱へて居るし又其性質として唱歌を結合することが多い爲めに特に唱歌遊戲とも稱へられて居る。是は從來の幼兒教育法中では非常に重要視されたもので幼稚園の四大特技の一とせられて居るのであるが併し其教育的價値に就いては吾人甚だ疑ひなき能はずである。元來幼兒の依て以て發達し来る頗る多方の遊戲の種類と云ふものは實に左表に示す様な一經驗的遊戲

甲 直觀的のもの
乙 表象的のもの
　　聽話 観察 実驗

二模倣的遊戲

三練習的遊戲
甲 精神的のもの
乙 身體的のもの
丙 技術的のもの
　　イ 言語的のもの
　　ロ 技術的のもの
　　ハ 生産的のもの

運動。
唱歌等。
手工の類。

甲 想像的のもの
乙 記憶的のもの
丙 考物の類

而して所謂唱歌遊戲と云ふものは吾人の所謂練習的遊戲中の「運動」と名くる種類の中に當然包含せらる可きもので而も運動類の主要部ではないのである。して見ると何も此唱歌遊戲ばかりが盛んに行はれたからとて幼兒教育上に何れ程の効驗があらうか、無論全然無驗のないことはないに相違ないが併し從來の幼稚園が此種の遊戲を特に重んじた程に有効なものであらうか吾人は頗る疑はざるを得ない。或人などは「コンナことをさせて發達もなにもあつたものではない」と憤慨して居る人もあるが今後の幼兒教育法は此點に於て大に反省

する所がなければならぬ。元來此唱歌遊戯は一般に温雅なもので且一齊に行ふことが出来るので幼稚園の様な多數の子供を集めた處では誠に都合のよいものであるが併し幼兒の体力と其興味とを充分に發現せしむることに於ては常に不足の場合が多いのは室内の唱歌遊戯として是非ない次第である。幼兒の能力増大と云ふことを目的の一とする論者の側から見ると之は甚だ面白くないもので一部の人士の憤慨するのも無理のない譯である。けれども是は餘りな極端論である。吾人は皆夫れり相當の價値あるものと認めて居る、要は之を以て遊戯つ本領であるかの如く心得ることを止めねばならぬ丈である。

尙父現在の幼稚園などで行ふて居る所謂唱歌遊戯中には吾人の認めて全然遊戯でないと思ふものがある。彼禮の遊びなど云ふのは其一例である。此遊戯は吾人の參觀せる幼稚園では多くの處で行ふて居つた。けれども吾人は何うしても遊戯とは思へぬ確かに一種の勤勞であると思ふ。吾人は斯の如き興味なく且精神なき遊びに依りて禮を教へんよ

りは寧ろ「まゝごと」を獎勵することに依つて禮を教める方が尤も具体的で然も精神的であると思ふ。此他にもまだ之に類するものがある様である。それから又唱歌遊戯は自然の結果遂に嚴重な一齊遊びには何等の興味もないと云ふものが必ずある筈である。而して斯る子供迄を壓制すると云ふことはそれが幼兒の我儘を矯めると云ふ特別の場合の外は何等の根柢もない非教育的な事である遊戯は決して強迫す可きものでない。強迫す可きは遊戯ではない。今後の幼兒教育は此點に就ても改良しなければならぬ。

又從來の幼稚園遊戯では遊戯の形式が美しく行へると云ふことを誇りとして圓形に並ぶとすれば幾何の圓形の様に正しく圓く、一列に並ぶとか進行するとか云へば一直線に軍隊的になるを宜とし居る。其程度が吾人は幼兒教育の範圍を通り越して過ぎて居る様に思ふ。一体に今の幼稚園は子供を美しくすると云ふことには熱心に過ぎて居る

幼兒は決して美術品ではなく飾つて眺めるものでない。生きて居る動物で然最も最も我儘な怪物である。而して此天真は必要ならざる限りは妄りに規制する可きものではないとは教育上大切のことである。故に幼稚園の唱歌遊戯は決して參觀者の爲めに美しいダンスを見せるために行るものではないのである。幼兒を斯様に玩弄視するのは一つは父兄や教育者の樂しみであらうが彼等幼兒等は何等の教育的價値があるものではない。それから又唱歌遊戯には何かと色々な規律がある。此規律が外觀をよくするためには多くは度に過ぎて居る。是は何うしても或程度迄で我慢しなければなるまい。其程度と云ふのは何處であるかと云ふと其團体的共同的遊戯の成り立つために必要な其限度である。此必要な度を通り越して迄も規律を八ヶ簽敷云ふのは理由のないものである。

今は理由のないものは現在我處々の幼稚園に於て行ふて居る所の要するに現在處々の幼稚園に於て行ふて居る所の共同遊戯若しくは唱歌遊戯と云ふものは其外延を今少し縮少せなければならぬ筈のものであるから今後の体育者は注意して其窮屈な範圍を脱し閉ち

られた遊戯室から出て自由な多方面の發達を心掛け可きである。

獨逸小學生徒の自殺

獨逸の小學生に自殺者多きとは近來同國の一問題となりつ

いあり

今之な同國の統計に徴するに、一八八〇年より一九〇三年までの十四年間に於ける小學生自殺者總數は千百五十二人にして、男児と女児との割合は前者四に對する後者一なり、而して自殺の原因は處罰を恐れたる者三五三十五、精神錯亂七十、飲酒及び其他の不節制六十八、他はニイチエ若しくはシヨーベンハウエル等の著書を読みたるが爲め厭世、絶望、或は失戀に陥りたる者にして、苛酷なる家庭若しくは學校教育及び不健全なる讀書は確に自殺の最大因たるとを證す。我がに於ける近來流行の自殺に關しては、未だ正確なる統計を得る能はざるも、獨逸の此統計は参考となすに足るが如し、我當事者も亦速かに此の如き統計を發表するとあらば自殺を防ぐに莫大なる効果を奏するは疑を入れざるなり

都會の兒童の長所と短所

光藤泰次郎

都會の子供の第一番の短所は、身體の強健ならざる點に存すると思ふ。言ひ換へて見れば、都會の子供は一般に身體が華奢で骨細で、顏面蒼白な點に在ると思ふ。田舎の子供の身體が強健で、見るから頑丈で、骨太で、顔面血色がよいのと正反対である。幼稚園の園児でも小學校の生徒でも體格の嚴正なる検査をしたならば、甲の部になるものは極めて少いであらうと思ふ。是等の現象は皆都會が子供を育つるに適當でない證據を示しつゝあるではなかろうか。それから又現在東京に居て實業なり、官吏なり各方面に於て活動しつゝあるものは、生え抜きの東京子もあらんが其大部分は地方より入り込みたるものであらう。そして生存競争場裏に於て、優者適者として存在して行くところから見れば、身體に於ても精神に於ても、必ず尋常に勝れたものを持つて居たに相違ない。然

るに或は幼少なる子供を失ひて、非歎の涙に暮るものがいる。或は澤山なる財産を持ちながら、譲るべき後繼者を失ひて、孤獨寂寞に暮らす者がいる。かういふ人は誰もの知り人の中にも決して少くないと信ずる。さて幼少者死亡の割合は都會と田舎とどちらが多いか、今統計が無いから詳細は分らぬが、どうも自分には都會の方が多いであらうと信ぜられるのである。都會の子供の身體が強健でないのは何故でわらうか。いふまでもない都會の設備が子供を養育するに適當ならざる爲である。都會とて下町もあれば山の手もあり、概にいへぬけれども、しかし都市の經營に市民の健康子供の建康などを腦中に於て計畫した設備の少いのは殘念至極である。道路にせよ、公園にせよ、も少し此等の點を考へて經營して貰いたいものである。

都會の子供の第二の缺點は根氣の缺乏である精力の不足である。都會の子供は何をさせても、甚だ気がきいて居る。拔目はない。しかしそれは一時である。容易く出來上る事はそれでも間に合ふが

時間が二時間か、り三時間か、り四時間か、ると
いふ風に、永續するといふと、忽ち倦厭の情を起
して、中止し中絶し、捨て、顧みぬといふ風があ
る。目先がかはり仕事がかはれば、可成りやつて
のけられるが、幾時間も幾日もかゝつて一つ事を
仕上げねばならぬとなると、忽ちだれてしまふ、
忽ちいやになつて仕舞ふ。要するに精力が足りな
い。根氣が缺乏して居る。此の缺點はどこから來
るかといふに、一つは身體の強健ならざるを原
因になつて居る。一つは刺激が多い此の都會生活
が確に原因になつて居ると思ふ。それであるから
都會の子供からは、才子は出る。氣のきいた人間
は出る、しかしどつもあまり大人物は出來まいと
思ふ。子供を持つた親達はよく注意をせんと、輕
薄なうすつべらな才子を出すをになるであらう。
都會の子供の第三の短所は意志の力の弱い點にあ
ると思ふ。尤も特別な遺傳により、特別な家庭教
育によりて、例外は無論あるが、都會の子供一般が
に通ずる性質としては、確に意思の力が弱い。彼
等に冷水浴、冷水磨擦の効能ある所以を説き、其

の實行を勧める。すると最初は皆やる。しかし風
邪をひいたとを口實に休む、入浴を口實に怠る。
海水浴をするからとてなまける。それで夏の間だけ
はどうやらつらくが寒くなつて來ると止めて仕
舞ふものが多いう。如何なる故障にも打勝つて一年
二年づつとつけて行くものは誠に少い。これは
たゞその一つの例に過ぎないけれども、一事が萬
事で、都會の子供は學問に對しても、柔道剣道等
身躰の修養に關するとしても、すべて此の流儀でや
る誠にどうも困つた者である、だから、家庭に於て
子供の教育を司る者と、學校に於て子供の訓練を
して行く者と共に一致協力して、此の缺點を補つ
て行くやうにせねばなるまいと思ふ。
都會の子供の第四の缺點は自然物に對する智識の
缺乏であると思ふ。近來教育の必要が漸く社會全
般に認めらるるやうになつて、多くの家庭に於て
もなかなか子供の教育には苦心されつゝあるやう
になつたのは實に喜ばしい次第であります。しかし
かしまだ十分でないやうに思はれます。それで子
供にもまだ自然物に關する智識が大分缺乏して居

るやうに思はれます。これは東京のやうな大都會に生活して居りますれば、日本人の常食たる米は何かとれるか、どうして作り出されるか、自然接する機會が少い。其の他綿布にせよ綿布にせよ、何からどうして作り出されるか、これも見る機會がない。田舎の子供が、足を運ばせ、目を動かすと、田を見る煙も見る、苗代田に種蒔の始から、發芽する具合から、だん／＼のびて、早苗をとり、田植をやる、青田になる、稻が穂を出す、花が咲く、だん／＼みのる、之を刈り取る、之を始末して玄米にするまで、自然に觀察が出来るのとは大きな相違がある。

都會の子供の有する第五の短所は、智識の淺薄な點にある。觀察の皮想な點にある。田舎は刺激が少い目先がかけられない。それ故に知識の間口はせまいといふ弊はある、しかし一事一物に對する觀察は案外深い、然るに都會は實に刺激が非常も多い。目先に常にかけつて居る。それ故に一事一物に關してその觀察を深くして居るひまがない。甲より乙、乙より丙と始終注意すべき事物が多い。

都會の子供の有する第六の缺點は臆病といふ點にあるかと思ふ。これにも無論取りのけはあります。都會には文明的利器が具つて居つて、夜も瓦斯燈、電氣燈、書を斯くといふ有様であるから光の缺乏して居る所即ち闇夜などは實に怖がるものである。勿論田舎でも闇夜を怖がりもし恐れもあるけれども、どうしても必要上田舎では、膽力を練るやうに鍛錬せられるのである、しかし都會に於ては、やうな鍛錬の機會がない。又人の多い脈動するとは好まなくなる。人の少い所に生活するのは寂寥で堪へられなくなる。まして海外へ踏み出して活動しやうなどいふ氣が起らなくなりは

しないか。兎に角私は都會が子供を大膽ならしめざるをいたく憂ふる者である。

以上私は都會の子供の有すると思ふ、缺點短所を數へあげましたが、然らば都會の子供には缺點ばかりあつて、長所はないかといふに、必ずしもさうでない。都會の子供には又都會の子供の特徴たる長所があつて、とても田舎のもの、金及すべからざるものもある。

第一に都會の子供は奇麗で華奢で上品である。嘗て某學校の生徒をつれて旅行に行つたところが、田舎の老婆さん達が大勢集つて居て、批評していくには、まあ東京の子供は奇麗だこと。だれもかれも皆一つやうな顔だちだと、かやうな批評は至る處で聞くのである。顔だちが皆一様に見えるのは、なれぬうちは我々でも西洋人が皆かはりがいいやうに思はれたのと同じ心理作用であらう。兎に角都會の子供の奇麗で華奢で上品などはとても田舎の子供の企及すべからざる處である。しかしこれが文明の進歩である。文化の致す所であると誇るものが出来るかどうかは疑問である。又これが

未來の國民となつた場合に活動に於ても強健に於ても頼もしくあるかどうかは疑問である。

第一は氣がきいて居る點にある。一寸口を開かせて見ても、一寸何かさせて見ても、實に氣がきいて居る。この點ではとても田舎の子供は梯子をかけても及びもつかない。しかしこれも長所として誇るべきであるか否かは私は疑問であると思ふ。

第三都會の子供は音樂繪畫等に趣味を持つて居る。この點は多分教育が普及し、殊に中以上の家庭に於てさういふ趣味を持つて居る者がふえて來た爲であらうか。此の點に於ても田舎の子供に一頭地を抜いて居ると思ふ。

第四都會の子供の智識は廣い。日夕活動せる都會に生活して居るとであるから、文明的のいろ／＼のをに關して耳に觸り、目に觸れる事が多い。それ故にそれ等のをに關しては智識がな／＼廣い。しかし此の廣いといふをが果して誇るに足るべき性質のものたる否やは疑問である。

これで都會の子供の長所を擧げ終つた。自分一己の觀察であるから、まだ漏れてる點も少くなから

うし。誤つてゐる點もあらう、それは大方の人の是正を仰ぐとして、以上短所長所を比較して見ると、都會の子供は長所よりは寧ろ短所の方が多い。又長所として列挙したところのものも、眞にどこまでも長所として行くべきものであるか否かは疑問のものもある。して見ると都會の子供の未來は餘程心配であつて、都會で子供を育てるの是非得失は餘程攻究の價値があると思ふ。近來殊に都市が發達して来て、之に向つてどんどん人口が集中して、來るに至つては此の問題は實に忽にすべからざる大問題である。これらのに就ては又更めて申見をひいて見やうと思ふ。

(完)

ので練習的のものは殆んどないと云ふ位である。勿論幼児の様なかよわいものに充分な練習的玩具を工夫することは困難なものには違ひないが夫れにしても半練習的のものは隨分工夫の餘地がありそうに思ふが出来ないものであらうか。夫れで此頃出来る玩具で練習的のものと云ふのは主として小學校時代の児童に適する様である。其中でも三越の「飛んでこい」一名燕返しは坪井博士の考案で隨分面白いものである。少し熟練して飛ひ返つて來たのを自身で空中に受取られる様になつたら所謂「貸しつこ」が出來て多少競争的遊戯をすることが出来るだらうと思ふ。

明治家庭社の「明治獨樂」は雨降りなどの際には幼稚園の子供の觀察的玩具として適當であるが之も練習的玩具としては何うしても小學校以上の児童に適するものである。

又此頃の舶來玩具中には色々幼児の觀察的玩具として簡単に面白いものが大分ある様である折を見て讀者に紹介し様と思ふ。

此頃の玩具

新奇な工夫の下に近來種々な玩具の發賣されることは教育上誠に嘉みすべきことであるが今是等の玩具を我幼兒教育と云ふ側から見るとまだ一遺憾なことが多き。即ち近頃の新玩具の中で幼兒教育上に應用する可きものと云ふのは重に觀察的のも

育児の経験

某夫人

夏期を利用して小供の健康を圖る事誰も申します通り、親の身にとつて小供の弱い程心を痛める事はありますまい。やれ發熱したとて医者を迎へ水で冷し咽喉を痛めたとて濕布をし、吸入をして、努力と金とを心配の中に費すことの多き事は、病氣にこした事はありますまい、どうぞして此の心配を少し小供の發育を充分ならしめんと願ふは世間一般親としての心に變りはないからふと思ふ。しかも病魔に犯さるゝ兒の多く、悲痛にくれ居る親の多きは何故かと申しますれば、色々な原因もありませうが私は親が小供に對しての衛生思想の缺乏による事が多いと思ふのであります。それを親の注意が行き届かず、衛生思想がなければ、天性健康な小供でも、遂に夭折の災に陥る事が多いのであります。夭折せずとも薄弱な不

幸の児となる事が多いのであります。我が兒壯健なれとはなべての親心でありながら、しかも實際小供の健康に注意を拂ふ事の客なるは、嘆かはしい次第であります。ことに其の任に當るは外で働く丈夫の事にあらずして、家をあげかる母親の手にある事が多くありますから、世の母親たるものは、今迄修得せし理科の應用をするは實に此の時ぞと、深く反省して、我が兒をして適當に其健全を増進せしめんと圖る心掛を持たねばなりますまい。

一年三百六十五日の間一日たりとも一時たりとも一分たりとも苟も我が兒を持たば其の發達に心を用ひねばなりませんが、ことに此の夏期は小供にとりて最も其の健全を圖る好時期と思ふのであります。世の人は色々で、夏期殊に酷暑の際などは、最も恐ろしいものゝ様に考へて、只々無事にさへ過せば其れで結構だと、只事なけれ事なけれと願ふ人もわりませうが、私はこの酷暑が一等小供の身心を鍛練するに好期であると信じて、成る丈け涼しい事ばかりさせないで、次のよーにし

て見ました。冷水摩擦もよし温水もよし日光浴もよし蟬取もよしトンボトリもよし濱邊に凉しき袂をひるがへすもし。静かな山に温浴を試むるもよし種々小供のなすべき事はありませうが、私共の様な貪しいものはそう四人も五人もある子をつれて涼しき場所に水浴させる事も出来兼ねますから宅に於て日中風呂を沸かして一日の中一等熱い一時半頃から三時頃まで、殆んど二時間程、子供を皆はだかにして、決して家中とか木の影とか涼しき場所におかず、日光のある庭に出して、洗足にし、先づ一回温浴せしめて、よく水氣を拭き取り、庭の中にて鬼ゴッコやら、水遊びやら土遊びやら、色々な事して、日光浴をさせます。其の時小供の嘻しさうな笑語は大變でピン／＼はね廻る様子のいかにもたのしそうに壯快を感じます。其も其筈で成程今迄暑いくと云ひながら汗たらたらになりて着衣せしものが其の邪魔になる衣服をぬぎますまづばだかになつて身體が軽くなつたのだから、活氣に充てる子供の、ジットしては居られる

筈はありますまい。大声あげてかけ廻り、土をなげ水をまき、花をむしり、女の子は六歳になりますが、汗タラ／＼となつて、朝顔やらホーセンカの花をむしりて、花ヤ／＼とかつぎ廻りて私の處に賣りに来ます。幾らですかと押問答する中に數の觀念を興へ、言語の使用法を悟らしめ、三歳になる妹に對して、好み花を興へて友愛の情を養成せしめ、男の八歳になる子は四歳になる弟をつれて、トンボや蟬をとりて、コノトンボは何と言ひますか、蝶々は何と言ひますか、何でこんなに鳴きますか、冬はなぜ出ないですか、このトンボとあのトンボはなぜ違ひますか、どくして大きくなりますか、何を食べますかと際限もなく有益なる質問をピヨンピヨン矢の如く放ちます。又ふ湯に入れて洗つてやる中にはなで垢が出ますか、なで洗へばよいのですか、なでシャボンをぬるのですかと衛生的の質問も出る。ア、其れは皮膚にね敷へきれぬ程少さん穴があつて身體の中に出来るきたない物や汗やなどは皆この穴から出る。其れを湯に入つて洗はないと其の垢が出る事が出来な

いから、身體の中につて身體の災をする。それが病氣の原因になる事もあるのだから、よく前達の身體はコスリて汗やきたない物を出さなければならぬと、子供の身體を洗ひながら委しく平易に話してきかせますと、子供は實によく了解する。これをくり返しくり返し、お湯に入れる度に、種々の方面から話しながら洗ひますと、子供は只で聞きては居ません、黒い眼を輝かし、口を尖らして、母さんそんなら若し洗はなければ病氣になると。病氣になれば死ぬかなど、實に子供心に起る質問を珍しく出す。これを黙過せず必ず之を捕へて、一つの系統を立て、平易に話しきかせる。子供を奇麗にする上に將來學校で理科教授を受くる時の準備は立派に成立つ。否理科教授をして、身體の大切なる事健康の貴重なる事などは皆立派に悟らさせる事が出來る。ソコで子供が胃腸にわるい食物をねだる時や、或は厚衣薄衣をして、身體の立派に悟らせる事がある。ソコで子供が胃腸にわるい食物をねだる時や、或は厚衣薄衣をして、身體の立派に悟らせる事がある。

それでは間食はよしと、かいふ風にして行きますと子供は只懲制的にしたい間食を止らるゝといふ不満の念は更になく母の命令に服従します。話がつい／＼餘計な方にはしりかけましたが母が子供を育てる時は實に一分の隙もありません。今は水につき火につき、或は胃につき、腸につき、毛髪につき、眼の事につき、肺の事につき、足につき、手につき、爪の衛生につき、口内の衛生につき、齒につき、すべて見るもの皆子供に立派な學問をさせる材料でないものはありません。稍大いこんな六つと八つの子供には種々右申しました様な概念を授くる中に、温浴と日光浴とは充分にやらせます。かかる質問を持たぬ四三二歳三兒には、いろんなそちらのふもちや等をとり興へて遊ばせます。そして或は熱さのひどくなるときは冷浴もさせます。かくして二時間計の時間を活動させてしかも一日の中一等凌ぎにくい時を大變愉快に過ぎませまして、少し暑さの度の感じました時を温浴をさせて、シャボンで奇麗に洗ひ、乾いた手拭で

よく水氣を去り、皮膚の赤くなつてこすりて衣服を着せ、平常の装にいたします。晩餐の時は食事がすくみ夜は全く白河夜船で平素ね小便して居た子も其の時は無事にね小便をいたしません。實に此の夏期はどう子供に楽しみな事はありませんまい。

たる責は少しも盡されない事になるだろうと思はれます。どうか世の母たり妻たる人は、平素自己の修得したる智識とこゝに活用させ得らるゝやう、かみこなした上に、或ば暇を見ては新紙雑誌に目をさらして、時勢に遅れないやう氣をつけて貫ひたいと思ふのであります

(完)

世界の人頭

最近の調査に據れば地球上に棲息する人類の總數は凡十四億五千万人にして此内亞細亞に住する者は一億人平均一哩平方百二十人の割合にして世界人口中最も稠密なり歐羅巴は三億二千万人平均一哩平方に百人を有すア非利加は凡そ二億一千万人南北及び中央阿米利加は凡そ一億一千万人外に大小の島嶼に住する者凡そ一千万人にして其内黒人と白人とは五に對する三の割合なり又總の人類中完全に衣服を着する者は凡そ五億人全く裸体にて生活する者二億五千万人半ば体を被ふ者七億人家屋に居住する者五億人小舍又は穴に居住する者七億人殘りの二億五千万人は全く何等り住居を有せず

す質義に對して、明瞭な觀念を系統的に與へる所ではなく、答へ出來ず、その有益な質問を無残くふみにじりて行くやうであれば、實に親たり母

○花と氣象との關係

樂天子

草木の花の開閉が氣象と少なからぬ關係あるは勿論にして、只に溫度と光線のみならず、晴天、曇天、乾濕なども大に影響するのである、これを一定の通理より云へば、およそ花の開閉は、光線と溫度の變化に感するの結果にして、光線が強さを増し、溫度加はるとときは開花し、光線が微弱となり、溫度下れば閉花するものにて、彼の百花の朝に於て開くは、光線加はりて溫度の上るのに因るのである、其夕に於て閉づるは、光線減じて溫度の下るのに因るものなれば、花の開閉は主として光線と溫度との變化に感じて、花被の成長に影響を來し、極めて微妙なる點に於て諸部の成長に不平均を生ぜしむるものがなれば、天氣の晴雨乾濕に依て著しく花の開閉に關係を及ぼすことは免かれざるわけなのである、併しながら百花の内には、又各々特有の性ありて、この通理のごとならざ

るもの、即ち光線溫度の分量如何によりて、夜間に開花し、晝間に至りて閉花するものも亦少なくないのである、外國の植物學者が研究によれば、花の開閉は一日の時刻に應じて、恰も時計をなすといへり、今其開花の時刻表なる者を得たれば、試に左に掲げて一斑を示さん。

時	刻	午前	午後
一時	二時	時黃花 <small>あさがほ</small> の一種 ナツカシソウ アサガホ、カウソリ	ビレッラム コソムサム
三時	四時	時黃花 <small>あさがほ</small> の一種 ナツカシソウ アサガホ、カウソリ	
五時	六時	時黃花 <small>あさがほ</small> の一種 ナツカシソウ アサガホ、カウソリ	
七時	八時	月見草 <small>ふうるさく</small> 待宵草 <small>まつゆく</small> オシロイバ	
九時	十時	萬葉、金盡花 <small>シモツバ</small> ツムス、リリハコ、石竹 <small>セキザク</small> 一一種、鬼夕ヒラコノ 酢醬草 <small>ソシヤウ</small> 、鍼形草 <small>シゼイ</small> 、松 <small>マツ</small>	
十一時	十二時	虎耳草 <small>タケス</small> 、ノミノツツ 千人筆 <small>チリブシ</small> リの一種イサウツ	

此頃の料理

石井 泰次郎

小皿 茄荷の子

て出すべし、

三四四

白味噌仕立
青豆搗り流し海老
岩たけ

胡麻わへ

めうがの子は、よく土を洗ひ落し、斜にはそく切り、笊に入れ、水をかけて洗ひ、其まゝ水を切り置き、

次に、黒胡麻を、目のこまかき毛ふるひに入れてふるひ、砂を落し、塵も取り去り、焙碌にていり、搗鉢に入れてよく摺り、鍋に入れ、醤油、みりん酒、砂糖等を加へて火にかけ、煉り、さまして前

のめうがの子を入れてあへるなり、

右の煉り胡子麻の割合は、ごま一合に、醤油二勺餘、みりん酒二勺、砂糖四匁ほどにてよし、

○トマト、シンチ、

(原料割合) トマト(赤茄子) 大十二箇、牛肉
六十匁、豚肉四十匁、鹽、胡椒、鶏卵一箇、ヘ
ット、ベタ、

青豆を、枝豆なり、莢より取れ、さやのまゝ、よく入れてよく摺り、うらぎになし、
白味噌も、摺りて裏でしなし、摺りたる豆と共に、
鍋に入れ、かつを煎汁、又は水にて程よくうすめ
火にかけて煮立つるなり、
別にさやまき海老を、鹽湯にて湯煮し、皮及び脊
わたを取り、五分位づゝに切り、
岩茸は、湯煮して水を取り入れ、よくあらひ、
石づきのかたき所を取り、小さく摘みて置く、
さて前の、白みそと青豆と合せたる汁を、少し小
鍋に取りわけ、海老、岩だけ等を入れて、一寸と
火にかけあたへり、椀に盛り、前の汁をつぎ入れ

少しくりぬき置く、くりぬきたる種のある所も捨てず取りおくべし、
さて一方には、牛肉、豚肉ともに、白き筋の所など取り去り、こまかに切りて、肉挽機械にて挽くか、又は庖丁刀にてよくたき、鹽胡椒及びトマトの中をくりぬきたる部分を加へ、鶏卵も入れてよくよくませ、

前のトマトのくりぬきたるあとへ、少し盛り上るくらゐに入れ、ナイフにて上面をたいらにならしばらばらとパン粉をふりかけ、小匙半杯ばかりのバタを、眞中にのせ、てんぱんにヘットを敷きたる中へと、並べ入れ、てん火の中へ入れて、二十分間ばかり焼くなり、やけしならば取り出し、一人前に二つ位づつけよし、(トマト一箇にて一人前の割) 或は一つ宛にしてバセリなど添へてもよし、

甘譜料理 一つ二一つ

◎ 樂いも

品のよきさつまいもを、全のまゝ蒸籠に入れてむし、二三分の厚さに切り(太きは輪切りに、細きは少し斜にするなり)、青竹の

少しくりぬき置く、くりぬきたる種のある所も捨てず取りおくべし、
さて一方には、牛肉、豚肉ともに、白き筋の所など取り去り、こまかに切りて、肉挽機械にて挽くか、又は庖丁刀にてよくたき、鹽胡椒及びトマトの中をくりぬきたる部分を加へ、鶏卵も入れてよくよくませ、

前のトマトのくりぬきたるあとへ、少し盛り上るくらゐに入れ、ナイフにて上面をたいらにならしばらばらとパン粉をふりかけ、小匙半杯ばかりのバタを、眞中にのせ、てんぱんにヘットを敷きたる中へと、並べ入れ、てん火の中へ入れて、二十分間ばかり焼くなり、やけしならば取り出し、一人前に二つ位づつけよし、(トマト一箇にて一人前の割) 或は一つ宛にしてバセリなど添へてもよし、

◎ ふわくいも

串にさし、炭火にかけ、少し焼き目をつけ、味噌をねり又ちよろと火にかけてあぶり、其まゝ皿に盛り、あたゝかきうちに進むべし味噌は、山椒味噌、わさび味噌、木の芽味噌、などよし。

◎ ふわくいも

さつまいも、生にて皮をむき、おろし金にて摺りおろし、摺鉢にてよく摺り、鶏卵打ち割り、共にすりませ(いも、中一つに鶏卵一個ぐらゐの割)、かつを煎汁に、醤油、みりんを加へて、椀の汁くらゐの加減に汁を仕立て、にえたちたる所へ、前のいもを、杓子に一とすくひづすくひ入れ、蓋をして置き、ふき上りだる時器に盛り、胡椒の粉を上に置き、出すべし。

◎ 糟づけいも

生にて皮をむき、よきほどに切り、ねかみそに一夜つけ、取り出で酒糟へ漬けなほし、一二週間ののち食すべし。

◎ 飛龍頭いも

皮をむき、生にておろし、豆腐少し入れ、よくすりませ置き、別に銀杏を、圓き皮を去り、湯煮して手にて揉みて薄皮を去り、二つ或は三つ位に切る、又、木くらげを、水に浸してやはらげ、湯煮し、石付きのかたき所を摘み去り、五六枚づゝ重ねてくるくと巻き、端より細く切り又、にんじんを細く切り、湯煮し、以上三品を薄鹽油にて煮、味をつけ、外に、麻の實、ちんびら等も加へ、前のいもと交ぜ合せ、丸めて、手にて少し押して平たくし(四五分位の厚さとす)、うどんの粉を付け、胡麻の油にて揚げるなり。

◎ いもあへ

いもを、蒸しても又は焼きても、皮を去りて、馬尾篩にてうらごしにし、みりん酒、醤油を加へ、鍋に入れて木杓子にて練り、何にても好みのものがあへるなり。

三十六

短歌

林 靜子

身をかざるみどりの髪はやがて見をいましむる緒としろしめせ君
胸に秘むる絃琴にひけ芭蕉葉をすべりて落つる露のしだり

○ 廣瀬 賴一

賤が男のやさし心も見ゆる哉からでのこせし撫子の花
山の端にかたぶく北斗牙えへて子規啼く北深のさと

山内翠

むらさきの露をぬけでし摺の九輪でらして入る夕日哉
西せんか東せんかの下京や月はがらかに笛かすかなり

しら

我思ひ遠く野に入り夏草の花とも咲かむ君むかふため
悲みの國に咲くべき姿かなうなだれ勝の白ゆりのはな
江にのぞむ家美しき簾して朝をもれ来るたま季の音や

菅原櫻

袖香のわか公そぞろ足とめて

一枝たなりぬ河原撫子

秋の夜を虫に閉さぬ草の目に

ほのめき出でぬ夕月のかげ

磯田良

* * * * *

相濡せし二人がみ手に掬れて永久につきされ青葉の泉
永劫に冷たかるべき谷かけの石とも見ゆれとある心は

○

○

芳子

○ 投稿

歡迎 伊勢白子局區内 真宮宛

柴折戸をさきうづめたる白萩に秋の氣ゆらぐ黄昏の風
大瀧のしぶきにゆれて白百合は清き香はなつ深山谷蔭

湯浴して廣庭あゆむ少女子の友染すゝしゆふ月のかげ

○ 富美子

露しげき大野の朝をさまよへる少女に匂ふ夏草のはな
おほ夏や湯の香薰する谷あひの青葉こかげに驚を聞く
○ 加藤たまも

一ふしの摺の音やみて月さして思ふこと多し湖のよひ
説めけるあだ文やきて蚊やりして月見る夜なり啼く子規
うつくしき夢くりかへし思ふ戸の伊豫麗もれ来る白蓮の香や

* * * * *

幼稚園の効果に 對する質問に答ふ

湘南生

雑誌が質疑應答欄を設けて居るのは本誌に限らぬが併し本誌愛讀諸君が寄せらるゝ様な切實なるものは定めし少ないことであらうと思ふのである。夫れで朝幼稚園に出勤して机上を見ると見慣れた手蹟の封書があるときは大抵質問であると云ふことが判るので早急な仕事を控へて居らぬときは先づ第一に是手から読み始めるが予のふきまりである。そして出来る丈他の用事を繰り合せて其返書を認めるのが我輩の一つの樂しみである。惟ふに態々筆と執つて質問を試みられる人の心中を考へたら是位にしても或はまだ親切が足りないかも知れぬ。併し時としては溜まりくた用事に逐はれて日も是足らぬと云ふ様な時には往々一讀しな盡一週間位其儘で置くことがないでもない。こんな時には心中頗る安からずで二六時中氣に掛つて仕方がないもので此邊の苦心は或は讀者にはふ

判りにならぬも知れぬ。開話休題として先月の廿四日のとであつた。予は例の如く朝七時半頃幼稚園へ出勤して机上を見ると常にもなく一本の郵便もない。先づ今日は一と休みかと思ふ間もあらせ

ず小使はドーアを押して一と握りの郵便物を置いて行つた。中には目下募集中の手工圖形豫約の申込はがきが四五外に封書が五六本、と振替貯金課よりの郵便物が一包あつた。先づはがきは番号をつけて豫定の袋の中へ投じ振換局の郵送物は會計の机上に置いて扱て是からが封書の點檢だ。六本ばかりの封書四本は會費の郵送で會計係の擔任であるが後の二本は質問書であつた。其中の一本は某西洋婦人よりの來書で一本は即ち次に掲ぐる近藤氏の質問書である。

拜啓毎度御面倒なる御事御伺申上恐入候得共別紙の表につき是非御高教にあづかり度只管御願いたし候拵當園の方針は保育料を極めて廉にして出來得る丈け家庭のひくきものまでを收容せん目的故他の園に異なり生活程度中の下位のものまでまじり居り申候右の次第故幼兒數は

年々貳百名以上にのぼり申候それを五組に分け
七人（有資格五人）にて保育いたし居り申候此頃或
る必要より三年以上に貳年以上の在園者の學
校成績相調べ申候處學業操行共別紙の通りに
是あり候學業の極めて劣等なるものなき點はい
さゝか心を安むる處に有之候やうなれ其操行に
於て上位割合に少なきと學業に於て優等者が澤々
山なきとの點にいたりては慚愧の至りに是あり
私共の保育法の何れかの點に誤りあるが故にこ
そならんと只いたづらに打寄り憂悶いたし居り
申候よつて誠に御恥かしき次第ながら調べのま
い差し出し申候間何とぞとくと御覽下され候
上嚴しき御評と且保育の誤りと御認めの點と
を細かに御示し御教しへ玉はり度右懇願いたし
申候敬具

九月二十二日

濱松幼稚園保母兼園長

フレーベル會幹事御中

近藤 しげ

其切實にして熱誠なる右の質問の如きは誠に稀で

あらうと思ふ。殊に自己の不敏を白状して迄の研究的進取的態度には我輩歎からず感嘆せしめられたのである。且又此如き質問は現時幼稚園の業務に手づさる人の何人も抱懷せる疑問であつた然も之を口にして其疑點を暴露せんことは何となるか憚る所あるが如くに感ぜられて多くの人の躊躇し惑ひつゝある所のものである。然るに此憚りあるが如く面はゆく見ゆる所の質問を遠慮する所なく遂に發表せられた近藤氏の勇氣には只管感服せざるを得ない。そこで我輩は斯る有益なる質問を單に本會對近藤氏の恢々範圍内に於てのみ解決する處なく廣く會員諸君一般の御参考に供するのが極めて至當の事であらうと思ふので倉惶筆を執つて思ふ所と茲に述べた次第である。同氏手簡中の別表は頗る興味あるものではあるがいのは殘念である。

さて近藤氏の質問する處に因ると操行に於ても學業に於ても共に優等者が比較的に少ないと云ふことが大に不審とせらるゝ所らしいが我輩の見る所

に因るとは強ち不審とも思へないのである。元來幼稚園はフレーベルの教育主義と根據として行動して居るから、従つて幼兒の自發活動を重んじ妄ちに之を制限しない。然るに小學校に於ては今も尙劃一一齊主義が彌漫して居つて教師は幼兒を木偶的に器械的に自己の意志に盲従せしめ様とする傾向が絶えない。従つて幼稚園に於て教師を友達と心得て活潑に行動せる幼兒が小學校に入りては何となく落ちつかぬ動物の様に見えて操作上の評語の價値をふとすのは當然ではあるまい。是は恐くは保姆自身が幼稚園より引き續きて小學校へ受持を繼續して行つても矢張り同様の感があるに違ひないのである。何故と云ふに現在我國に於ける一般の保育主義には元來二個の矛盾したる思想があるからである。即ち一はフレーベルの主張したる自發活動主義で一は即ち幼兒をふとなしく優雅のものに躾け様とする日本固有の保育思想である。此二つの主義は到底両立することが出来るものでない。一方を盛んにすれば一方は大に讓歩しなければならぬのである。然るに我國一般の

幼稚園では唯徒らに之を兩立せしめ様として居る幼稚園出身者が失敗するのは固より當然のこと、云はねばならぬ。尤も近藤氏の所謂操行の上等ならざる。點が記者の認めたる點に非ずして他に存するならば其は別に研究の價値があるであらうけれど今は別段に内容の説明がないから一般に認められて居るものと指して居るものと見て論ずるのである。

さて又學業の成績に優等者が少ないと云ふことであるが是は明かに現在の保育法の欠點であると云はねばならぬ。實際何處の幼稚園の出身者にも學業の優等者は比較的少ない。併し是も又不思議とするには餘りに明瞭な問題である。何故と云ふに從來否現在に於ても幼稚園の保育法は一般に餘りに學校的であり一齊的であつて幼兒を平凡に／＼にとこそ教育はすれ決して勝れる様もぬける様にとは教育して居ないのである。是は何處の幼稚園に行つても明確に見得らるゝ事實で心ある人が少し注意して觀察すれば直に了解出来るこ

とである。既に平凡にと教育して居つたとすれば其等の幼児が小學校に於て非凡の成績を表はさぬと云ふことは別段怪しみ可きことではない。

故に若し小學校に於ける成績を優等ならしむるところが必要ならば幼稚園は其積りで保育しなければならぬ。然するには現在の保育法は餘りに窮屈であるから大に改良を要すと云はねばならぬ。之を要するに近藤氏の質問不審は如何にも不審の様であるが併し現在の保育方法よりすれば當然の結果で別段怪しみ可きものではないのである。是が若し一般の幼稚園の成績が小學校に於て何れも優等な成績を表はして居るのに獨り近藤氏の幼稚園出身者のみが他に比して劣つて居ると云ふのならば大に近藤氏の技量を疑はねばならず其保育方は當然誤りあるものと云はねばならぬが併し從來に於ける幼稚園出身者の成績の思はしくないのは全國に於けるものが皆そをなので吾人の眼よりは寧ろ當然の様に見えるのであるから別段怪しみ可きものではないのである。

吾人は思ふ。若し現在の如き保育法丈けで子供が大なる發達をするものならば教育は實に易々たるもので教育者は強ち頭を痛めて教育學的研究をする必娶はないと、斯く云はる現在の幼稚園は如何に處置せらる可き現の保育法と現在の成績とに満足して何等の改良を施す必要なきか、或は是を改良して新なる發展を試ひ可きか否やの問題は次に来る可疑問であらう。是に關しては吾人は別途に保育意見を有するものである。吾人は此新なる保育思想（否正直に云はる復活せられたる保育思想）に因つて現在の窮屈極まる型式的皮想的保育思想より脱出して大に發展主義精神力主義の練磨的教育を實現して從來の文弱的教育の流弊より脱出し様と思ふのである。吾人は之に關して核に自分の意見を陳述したいのではあるが紙面に限りわづて到底盡くすることは出來ないから一切省くと仕様。若し篤志の人あり吾人之意を同ふせらるゝ方あらば希くば拙著幼兒教育法を讀破せられんことを。以上述ふる所につて近藤氏の質問は略盡きたと

思ふから次には寄せられたる幼児の成績表に關して一二舉見を述べて見様。

先づ第一に此表を見て不審に堪えぬは前に掲げたる近藤氏の手簡中の文句と一致せざる所である。同氏の手簡に因れば操行及學業に於て勝れたるもの比較的少しと云ふことであるが今表に就いて尋一の成績を調査して見るに操行に於ては全幼兒二百四十人中六十五人は優等者で學業に於ては七十七人が優等者である。共に幼稚園出身者の三分の一は優等者となる譯であるから比較的小ない處ではなく却つて多い譯であるが同氏果して何に比較して少ないと云はれたのか一寸判らぬ所である。それから表には小學校の上級迄の成績が悉く載せてあるが是は別段必要はないと思ふ幼稚園出身者の成績調査は尋常一年の第一學期株と家庭出身者の差は相殺せらるゝから調査して充分のことは判らぬに違ひない。何故と云ふに現在の小學校の教授法は全級兒童を平均にし一齋にする事に多大の力を注いで居つて會不平均が

あれば苦心しても之を矯めつゝあるのが一般であるから始めに於てこそ差違はあれ漸次上級に進むに従つて其差は消滅するものと云はねばならぬからである。好し又上級に於て大なる差を表はすことがあつたにせよ其差が全然幼稚園教育の結果であると云ふことは出来ないから兎に角斯く上級迄調べずとも夫れよりもつと尋一丈けに就いて詳細な調査をしたら何うかと思ふ。

女子高等師範の生徒募集

東京女子高等師範学校にては明年一月より入學せしむ可き保育實科生徒約八名を募集する由にて本月一二三日の官報にて發表せり。

顧出は来る十一月末迄に差出す可く入學試験は来る十二月七日八日の兩日に執行せらるゝ由、又入學試験課目は左の通りの由。
 國語（解釋） 同（作文） 圖畫（略畫）
 音樂（單音） 試問（口頭）

お喋りべり王と 喋り龜との話

と よ 子

昔印度と云ふ國のある處にそれはくはお喋
べり好な王様がありました。此王様はお名前をバ
ハマダッタと申上げまして大層お怜俐な王様で國
は大きく人民は澤山で一時は大層な評判であります
したが、餘り王様がお喋りをするので先づ第一
に左傍の役人が困り始めて遂に政治をする大臣迄
も困つてしまひました。

大臣などが何か申上ることがあつて王様の前へ出
様ものなら、何んな急がしい用事があらうがそん
なことには頓と御遠慮もなく御自分で御仰りたい
と思ふことはベラ／＼と止め度なく仰せにな
るので大臣は退がることが出来ないで困つてしま
ふのが常ありました。また時々は王様の御前で
本のお講釋を申上げる侍講と云ふお役人が王様の



前へ出て侍は是より何々の御本を御講釋申上げます」と申上るト
 王一マア〜待つた〜其前に一寸話したいと
 とがある。先刻私がね、裏の方を散歩して居た
 らぬ草叢の中から一疋の青大将が出て来て不、小
 さな蛙、丁度此位の蛙を呑まふとしたよ。夫れか
 ら不……」
 と王様は例に因つて夫れから夫れへと一人でふ喋
 べりになりますので其日も遂々御講義の時間が無
 くなつてしましました。毎日〜此様な事ばかり
 して居ましたので國の政治は何もかも届かない事
 ばかりで國中の人達は皆困つてしましました。夫れ
 でも王様は一向御構ひなく毎日朝起きてから夜御
 寢みになる迄ベラ〜〜〜と御飯を召上

は確かに王様よりも多いだらうと云ふことでした
 それでガア〜の鶴も、カア〜の鳥も逆も龜に
 は叶はないので仕まいには誰も此龜の相手になる
 ものがありませんでした。龜は是には氣が付かな
 いで自分一人豪いもの、様に思つて彼方へ行つて
 は鶴の悪口を云つたり、此方へ來ては金魚や絆鯉
 を馬鹿にしたりして居ましたので遂々お庭中のも
 のに嫌はれて仲間に入れて呉れるものがありません
 んでしたので流石の龜も少し閉口の様子でした。
 小鳥「アーア、眞常にアノ龜にも困つて仕舞ふよ、
 誰れか何處へ連れて行つてしまへばい、なア」と
 云ふて居る位でした。
 扱てそうこうする中に夏が來まして一体が暑い印
 度の國は大層な暑さになりました。
 そこで王様は例年の通り今年もヒマラヤ山と云ふ
 日本の富士山よりも高いくお山の中程にある王
 様の別荘へと避暑に御出になりましたのでお殿の
 中には少し用があつて残つて居た侍講の役人が
 唯一人居たきり誰れも居らずお庭の中の生物も鶴
 がおりました。此龜がまた一通りならぬふ喋り好
 きで何んでも仲間の鶴の話に因ると一日の喋り好

や驚きを始め大抵は連れて行かれて残つたものは忘れて行かれた例の喧嘩龜丈で誠に淋しくなつて仕舞ひました。其中に侍講のお役人は仕掛けた仕事もお仕舞になりましたので扱て是から王様の處へ御機嫌伺に参りませうと荷物を持つて長い廊下を歩いて来ますと今しもお庭の中で例の龜が松の木に休んで居る一匹の雁と話をして居る處でした

「王様の別荘のある所つて、餘程い、處かね？」

雁「それはお前さん、いゝのなんのつて、逆もこんな所ぢやないよ、なんしろ、時候はいへし、景色はいゝしまるで繪の中に住んで居る様なものさ」僕等は見からそこへ行く所なんだ、お前さんも一つ出掛けては何うだね、なんなら連れ行つて上げ様か？

「それは一つ是非行つて見たけれどもナア、僕には羽根がないんだから困つたナア、歩いて行つては随分長く掛るだらうし、一体何里位あるのかね」と聞きますと

雁「何里ツで、お前さん百里からあるんだもの、辿も歩いてなぞ居たら一日や二日ぢや行かれやしないよ、ナニ、こんなきたない池など、二度と再び歸つてなど来るものか、夫れよりもお前達こそいへ所へ行けないで羨ましいだらう！」と云はうとして聲が喉迄出ましたがふと氣が附いて見れば自分は今空高く飛んで居る身、若しお喧嘩して口を開かうものならそこそ大變、身體はふちくと

人で連れて行つて上げ様、別段六ヶ敷の事はないさ、先づお前さんは喰い付くことが上手だらう。それだから一本の棒を喰へるさ、そして私達が其両端を喰へて飛んで行けば譯はありやしない」と云ふので龜は大喜で

龜「それはうまい！」それぢや早速出掛け様」と龜は手頃の棒を探がして口に喰はへ二四の雁は其両端を喰へて飛び出した。

是を見た池の中の金魚や緋鯉達は大喜びで空高く飛んで行く龜を見送りながら大きな聲で魚「お喧嘩龜さん、もう歸つて來なくつてもいいよ」と云ひましたもんですから龜は少し腹だくしく思つて

地面へ落ちて粉微塵に碎かれるにきまつて居る
オ、恐いこと、と漸くのこと、で黙つて居りました。
二匹の雁は何時になく重い龜を間に連れて居
るので中々疲れるのですが夫れでも一生懸命で野
を越へ山を越へ川を越へ海を越して其晩は、とあ
る山の中の大きな松の木に宿ることにしまし
た。そして雁は龜を危険くない處へ下ろしてホツ
と一息ついて

雁先づく今日一日は無事で御目出度う。何う
か龜さんは何んだか直に話をしそうで
危険くて仕方がないあしたは忘れても話など仕
ました。さうに違ひないので龜も
「ア、百も承知二百も合點明日も明後日も大丈
夫ヒマラヤの別荘へ行く迄は死んだ氣で黙つて
居るよ、と云つて居ましたが六ヶ敷いものでし
た。

さて、其夜も明けて翌日の朝になりますと昨日の

通り龜が喰を喰へると雁は

雁「サア、今日も決して口を明けてはいけないよ」

と云ひながら棒の兩端を噴へて飛びだしました
下を見ると野も山も家も木も回り燈籠の様に飛んで
行き、切つて行く空氣は心持よく身體を撫で、
居ります。

頓がてとわる田舎の大根畑の上へ来ました。折
しも畑に働いて居た一人の百姓女がふと上を見ま
すと二匹の雁が一匹の龜を間に飛んで行くので
「ヤア皆の衆、御覽よお可笑な！龜が雁に連れ
られて行くよ、アノ様はなんだろう。」と云つて
ドソと笑ひましたので龜は怒ることか怒るまいこ
とか大變に怒つて

「エ、ナニ、大きにお世話だ、己れ等は是から
避暑に行くんだ。姿が何うでもお前の御世話に
はならないぞ」と云はうとしましたが氣が附いて
見ればあぶない處、此處が勘辨の仕所だと考へ
直してちつと我慢して黙つて居りましたので其晩
も或る山の中の洞の中へ宿る迄別段のこともなく
てしましました。

斯様にして次の日も又其次の日もよい鹽梅に羔な
くて飛んで行つて五日目の晩漸くのこととヒマ

ラヤ山の中腹にある王様の別荘町へ着きました。町はづれの松の木で一寸一と休みして是から王様の御殿のお庭迄はもう一と飛で行かれると三人で喜んで

雁「よくマア龜さんも黙つて居たね、もう大丈夫だすぐ其處だからね」と云つて居りましたスルト自慢好な龜は

「それは黙つて居様と思へば何んでもないさ」と云つて居りました、此處は話に聞き及んだ通り

時候もよく風も涼しく、おまけに景色が繪の様に奇麗で何とも云へぬよい心持でしたので龜はもう王様の御庭へでも來た積りで

「オ、あそこに横柄な鶴か居るよ、オヤ鶴鳥も見える様だ」とそろく例のおしやべりを始めました。其中に時が経ちますので雁は

雁「サア行かう」と又例の通りにして出掛けました。頓がて町の上へ来ますと往來で遊んで居た

椀白子供が早速見付出して

甲「ヤ、あれを御覽よ、龜が雁に連れられて行くよ、」と一人が云ふと一人が

乙「オイ雁よ鳥よ、其龜の子落しなよ、養て食べるんだから」と云ひましたので負け嫌の喧嘩好の龜は怒るまいことか大變に怒つて「ナニ?」と我知らず聲を出したが最後折角今迄辛棒して來た骨折も何も水の泡にして龜はスレット落こちて來て丁度王様のお庭の壇の中の庭石の上へビシヤリと落ちて甲良が壊れて死んでしまいました。

折しも王様は晝の御飯を仕舞つて昨日着いたばかりの侍講の役人を相手に例のお喋べりを聞かせながら散歩して丁度此處へ御出の所でした。それで王様は不意に天から龜が一匹降つて來たので王様「オヤ、不可思議なことがあればあるものだ」と云はれながら能く御覽になるとは是れは又不可思議! 王様が都の御殿の池の中に飼つて置かれた、王様の大事な龜でありましたので王様は吃驚なされ

王「これにはまあ何うしたのだらう」と仰せになると傍に居りました。昨日都から來た侍講は大體の事

を知つて居りましたので
侍夫れは斯く〳〵次第で御座ります一とお話を
申上げました王様は何時になく黙つて御間に
なつて、そして黙つたまゝ手を組んで首を傾げて
考へて居られましたが、頗がてのこと、はたと手
を御打ちなされて

王「侍講役！」と仰せられまして

侍「ハツ、何か御用事でも」

王「此龜は何事か私に教へるのではあるまいか。」

私も今迄は時々喋り過ぎた様だが餘り喋べつて
此龜の様になつては大變だねと仰せられました
傍に居た外の役人達は若し是が自分達に仰せにな
つたなら、

「イへ決して左様のことは御座いません。王様にはモット何か仰せて下さればいゝと皆王様の御
話を喜んで聞いて居ります」と斯う云ふ風に御
答えしやうと考へて居りましたが流石は侍講のふ

役人、左様な空ふ世辭は申しません。
侍「仰せ御尤もに存じます。王様が御自身のふ悪
いことに御氣付下さいますれば國中のものは何

れ程仕合せな事で御座りませう。
左様か、能く申して呉れた、私も是から餘り
決して喋へらぬことにするぞ、よ」と仰せられて
今迄の喋り王は今度は黙り王と云はれる位にな
つて政治は能くなり國中の人は大層喜びました。
目出たし



本會は振替貯金へ加入

せり

會員諸君の御便利を計り本會は今般振換貯金へ加入致し口座一七二六六番を所有致し候就いては爾今會費は勿論御注文の書籍代若しくば購入御依頼の物品代等は御最寄の郵便局にて同番へ御拂込相成候はゞ別に爲替料を要せず然も最も安全に本會へ到達致す可く候尙同番へ御拂込の際拂込書用紙の裏面なる通信欄へ何事にても御記載相成候ばゞ別段はがき其他の郵便を要せず本會へ相知れ可申く候斯る便法相開け候以上は充分に御使用の上爲替料郵便料等御攝約なさる可く御勧め申候

尙記帳料金貳錢は本會に於て負擔致候に付御拂込は成る可く一年分宛御拂込下され度餘り少し宛御拂込相成候ては本會は其度毎に貳錢宛の損耗相生じ候に付其邊御察し下され度候

明治四十一年十月

フレーベル會

振替貯金口座一七二六六番

會費領收

明治四十一年六月廿二日まで領收の分り

金額

年月日

会員登録

立濱中湯森大平木藤尾町岡岡神中武下下林進 吉篠河
 野 松淺田西塚村本田田田田村田田村 藤川野原野姓
 たか 知君な益みよきけ則み起 こき次四 よ五とツ名
 え松秀子を子ほねくい文つ作順うん郎吉蝶ね愛月よタ

会員登録

会員登録

会員登録

一、二、一、二、二、二、一、一、一、一、三、二、一、一、二、一、一、三、二、一、
 四、六、二、六、五、七、〇、〇、四、二、〇、六、三、三、一、五、五、二、三、三、九、三、三、二、四、〇、三、三、三、
 ○、〇

四、
 一、一、〇、一、一、〇、〇、〇、一、
 一、一、一、一、三、一、二、一、一、一、一、六、六、七、四、四、一、七、一、四、一、一、四、一、四、四、七、
 一、
 四、
 二、一、一、一、一、一、一、一、一、〇、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 三、六、四、四、七、七、九、七、二、一、六、八、八、八、八、一、九、七、六、一、一、三、一、六、六、六、
 二、二、一、二、二、二、二、二、二、〇、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、〇

進戸和脇石吉村關吉藤下櫻城野瀬内鈴小奥柳吉町澤齋千市藤吉八
 藤田田野井野越 野井村本田口谷藤木川田下村田村藤葉原岡川起
 つじ耕つ信ししチ千幸とあすまよなて千君た松すとまるを月い子文うむ春エ代子し きいさし子い鶴孝枝き枝みき文さ

一、三、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、二、一、一、一、
 六、〇、六、四、三、三、二、七、五、八、八、八、〇、二、四、〇、四、二、二、二、〇、二、〇、二、九、四、二、〇、〇、
 ○、〇、○

四、
 一、〇、一、〇、〇、一、〇、
 七、一、七、一、七、七、二、一、
 四、一、七、九、七、一、八、八、四、五、四、一、四、一、八、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 四、
 一、〇、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、二、一、
 二、一、一、一、七、六、一、七、三、八、八、八、一、一、七、七、一、八、六、一、五、七、一、四、一、一、三、八、五、
 二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、

安須大馬岩天川吉附用山高石中澤平仁字長阿青荒今橋上小松内
 藤子塚場尾神端田設瀬木野川本井子式坂部山井岡本口笠岡山
 鋼幼幼と原くナふト太たら稚まハ稚か萬つしたもさかけ春つきき千手定す
 くミ郎きん園キル園代竹齋やめみえたんい純子やよん代芳子やチ

三、三、五、二、六、五、〇、二、〇

四、四
 一、一
 四、四、九、九、七、七、八、七、七、一、一、九、九、二、四、一、九、四、八、七、七、一、一、七、七、七、七、七、七、
 四、四
 一、一、六、一、八、一、九、七、二、九、一、一、八、四、六、一、三、一、一、八、七、一、九、八、一、四、六、一、一、一、
 六、六、一、八、一、九、七、二、九、一、一、八、四、六、一、三、一、一、八、七、一、九、八、一、四、六、一、一、一、
 二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇、二、〇

小丸星巻芹小峯武森國川兵遠坂岩工宇梅坂若濱近窪馬小高喜高大
 貝山子野澤山藤本越上藤内崎藤佐澤本林 藤田場林市多橋千代
 幼稚イ稚うた八み賢き慈ふゝ千なみと三元とや次千ひ代
 さまき稚イ稚うた八み賢き慈ふゝ千なみと三元とや次千ひ代
 ださく園ノ房園めみ重ち一静く堅みル代るつみ郎重らそ郎代さ子

三、
 〇、〇

四、四
 一、一
 四、四、四、四、四、一、八、一、八、四
 四、四
 六、六

三

竹藤宮吉西鍋木野喜多小關西桑菊山高羽小大酒澤清白津河關藤玉
 澤村川武島島内村多田笠根川田地形岡田關山井江家井原谷並房
 しさいひや富いすき茂もみた次ふ隆す干と二初ちょい太
 ととさう壽く成き周う穂つねつ郎で瑞幸て代冬き郎枝か子ま京郎

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全四一、四一、四一、六

長岩鳥箱石近三井山野岩麻岡永成篠岩柴前永相勝池大武大千金佐和
與本居石川藤宅上田澤崎布山田志野崎田田畠島田袋田澤葉原藤
金幼幼と秀け稚々こち捨待みすりまつや都
の太し孝よと花し糸あた稚秀け稚々こち捨待みすりまつや
ふ郎け藏ねみ子づ子いつ聞吉い園みまた松枝つみがうつさ秀貞や

六五五四三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

四四四四全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全四一、四一、四一、六
一一一
一一二二三
一
四四四四
一一一
六六六六

高阿右寺柄小伊西杉池石中大春田八十川御今岩小澤淺高井加武戸
部塙越菅藤本木邊山嶋堀田坂木文島園立本谷田橋川藤
橋七原原清字生野二つしひもみ
い五ふすさものきま千春行三たりてみ玉藤か
ち郎をちわとふみさ東惠徳郎かつる琴つそ祐吉ぬうるげさ常とち

○書教育新大二現に近來○

先生年來の主張に基き歐洲の新研究を材料として嚴肅なる論證法に依て根本的解釋を與へられ實驗的研究の取るべきは十分参考して茲に整然たる一大系統的新教育學を構成せられたり

系統的教育學

東京高等師範學校教授
東京女子高等師範學校教授
東京帝國大學文科大學助教授

文學士吉田熊次先生新著

印刷中十一月
上旬發賣

洋裝菊刊上製全一冊
紙數約七百五十餘頁
正價金圓五拾錢
郵稅金拾貳錢

着金順序に依り發送す

老熟せる本邦教育社會は空理を談ずる所謂教育書に飽きたり。
本書は誠に時代の渴望に對する新來の適劑たり。

▲教育教授の革新の聲は起りぬ▼

教育教授の新潮

洋裝菊刊上製全一冊
紙數約六百頁
正價金圓五拾錢
郵稅金拾貳錢

着金順序に依り發送す

館道弘所發

貳町樂壹貳猿田神口
壹壹貳壹京替

女子大學教授

高島平三郎先生

色紙の見本入用

東京高等工業學校教授

小林 豊造先生

贊助

在大學院文學士菅原長岸邊

福雄先生

考按

の方には申越し
次第進呈します。

東洋幼稚園長岸邊

福雄先生

見本

定價三拾八錢
郵送費六錢
壹千個限り
金二拾四錢

小形見本残り少
なし。入用の方
は一時間を争へ。

教育的明治獨樂

小形特製
見本

但手代用諸
郵送費六錢
金二拾四錢

意

新玩具急至

小形特製
見本

但手代用諸
郵送費六錢
金二拾四錢

意

流行のエビ茶は何々の色か、ハイカラのオリーブは何色の混じた
かは、子供のみが大人でも知らない。然るに、此獨樂を廻はせば、
其色の種類と分量とが、直ぐわかる。實に奇々妙々の新案、
一度廻はせば、開いた口が三日間ふさがらない。かく、幼兒教
育上大切な色、二拾四種撰んである。熱心なる保姆諸君は
必ず試に一個お買ひなさい。決して嘘は吐きません。

フロエベル會の夏期講習會に出席の保姆は、一人も残ら
ず三四個から、二三十個も買はれました。美麗で健固で、そして
危険の恐れは少しもない。學習院幼稚園主事野口幽香子
氏は、既に數十個求められました。善は急げ、早くお買ひなさい

發

賣所 地方部

東京牛込區納戸町六
番地
第六六五番

明治の家庭社

ドクトル川瀬元九郎著

兒童教育

家庭衛生

定價金三十錢
郵稅金四錢

△東京毎日新聞評
ドクトル川瀬元九郎氏は醫界の泰斗にして學理と實驗に於て
世評あると同時に博士は體育獎勵に熱心に又其家庭に世の模範たるは人の善く
推稱する所なり此人にして此著あり有益の書冊たるは云ふまでもなからん吾人
は斯る良書冊の公にせられたるを喜ぶ

手 島 益 雄 著

奥村五百子言行錄

定價金廿五錢
郵稅金二錢

女子の新職業

定價金廿五錢
郵稅金四錢

手 島 益 雄 著

發行元

東京市本郷區
西片町十番地

新

婦

人
(振替貯金八四〇二)
社

●豫約募集●

フレーベル會編纂

幼稚園小學校遊戲的手工圖形

定 價

金壹圓五拾錢

郵 稅

未 詳

右は主として幼稚園に於ける手技及小學校の初學年に使用せらる可き手工の圖形約四百個を蒐集したるものにして新教育主義の實現上必要なる教材書なり。本會は特價金壹圓を以て五百部を限り豫約募集す希望者は至急申込む可し、但し應募者既定數に満たざる時は出版せざることある可し。

東京女子高等師範學校内

明治四十一年八月

フレーベル會